

## V ドメスティック・バイオレンス (DV) 等

### 1 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為

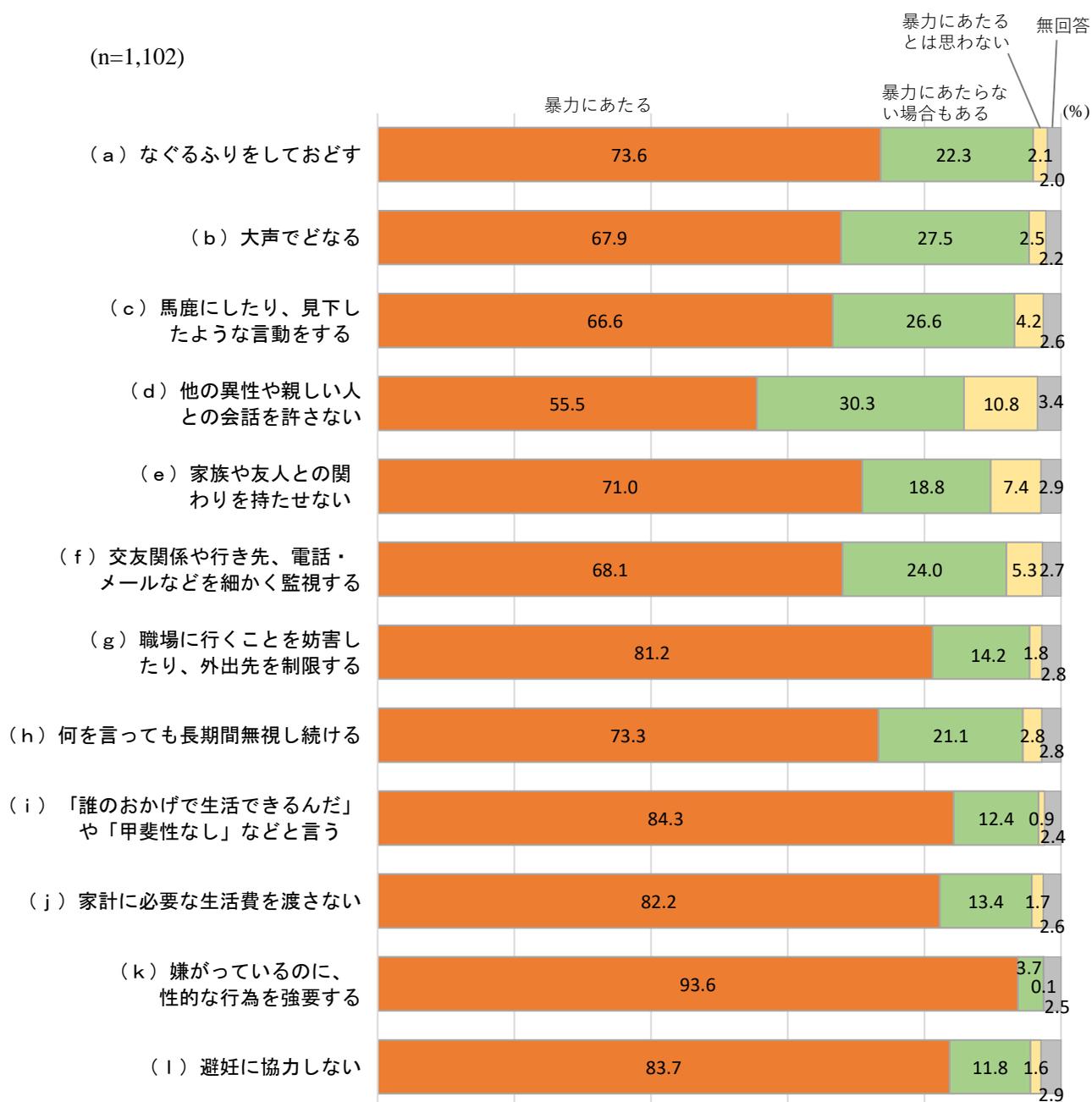
問16 次の(a)~(l)のようなことが配偶者や交際相手など、親密な関係にある者の間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。(○はそれぞれ1つつ)

「暴力にあたる」と思うと答えた人を多い順に見ていくと、

- “(k)嫌がっているのに、性的な行為を強要する”(全体93.6%)
- “(i)「誰のおかげで生活できるんだ」や「甲斐性なし」などと言う”( 〃 84.3%)
- “(l)避妊に協力しない”( 〃 83.7%)
- “(j)家計に必要な生活費を渡さない”( 〃 82.2%)
- “(g)職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する”( 〃 81.2%)
- “(a)なぐるふりをしておどす”( 〃 73.6%)
- “(h)何を言っても長期間無視し続ける”( 〃 73.3%)
- “(e)家族や友人との関わりを持たせない”( 〃 71.0%)
- “(f)交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する”( 〃 68.1%)
- “(b)大声でどなる”( 〃 67.9%)
- “(c)馬鹿にしたり、見下したような言動をする”( 〃 66.6%)
- “(d)他の異性や親しい人との会話を許さない”( 〃 55.5%)

の順となった。

図16-1 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為 項目別一覧（総数）



## 2 配偶者からの被害経験の有無

問17 あなたは、これまでにあなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。  
 (a)～(d)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。  
 (○はそれぞれ1つずつ)

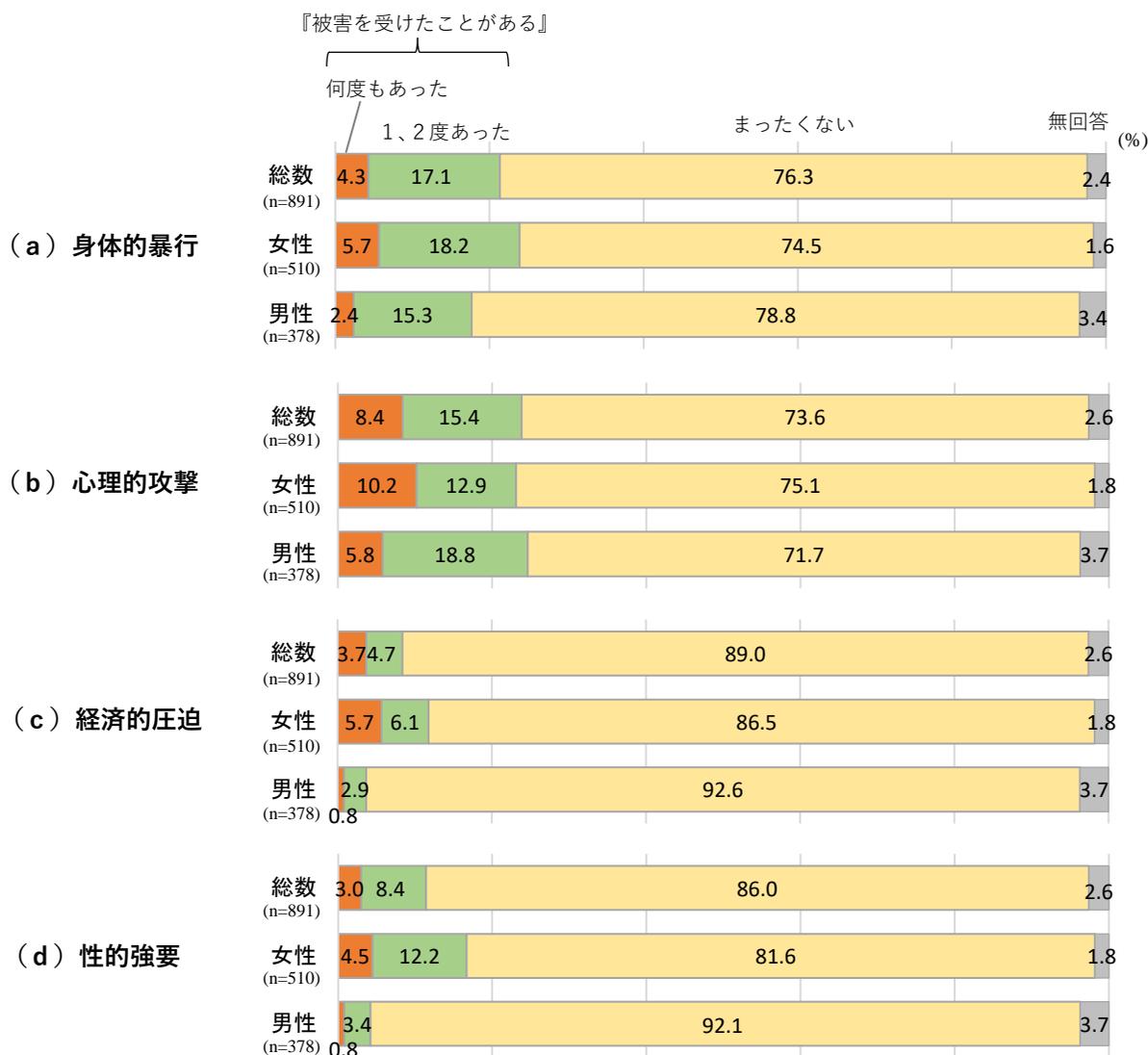
“（a）身体的暴行”では、「何度もあった」（女性5.7%、男性2.4%）、「1、2度あった」（女性18.2%、男性15.3%）となり、その合計では女性が男性を6.2ポイント上回った。

“（b）心理的攻撃”では、「何度もあった」（女性10.2%、男性5.8%）、「1、2度あった」（女性12.9%、男性18.8%）となり、その合計では大きな差は見られない。

“（c）経済的圧迫”では、「何度もあった」（女性5.7%、男性0.8%）、「1、2度あった」（女性6.1%、男性2.9%）となり、その合計では女性が男性を8.1ポイント上回った。

“（d）性的強要”では、「何度もあった」（女性4.5%、男性0.8%）、「1、2度あった」（女性12.2%、男性3.4%）で、その合計では女性が男性を12.5ポイント上回った。

図17-1 配偶者からの被害経験の有無 項目別一覧（性別）



## 2 配偶者からの被害経験の有無

### (a) 身体的暴行

(例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行)

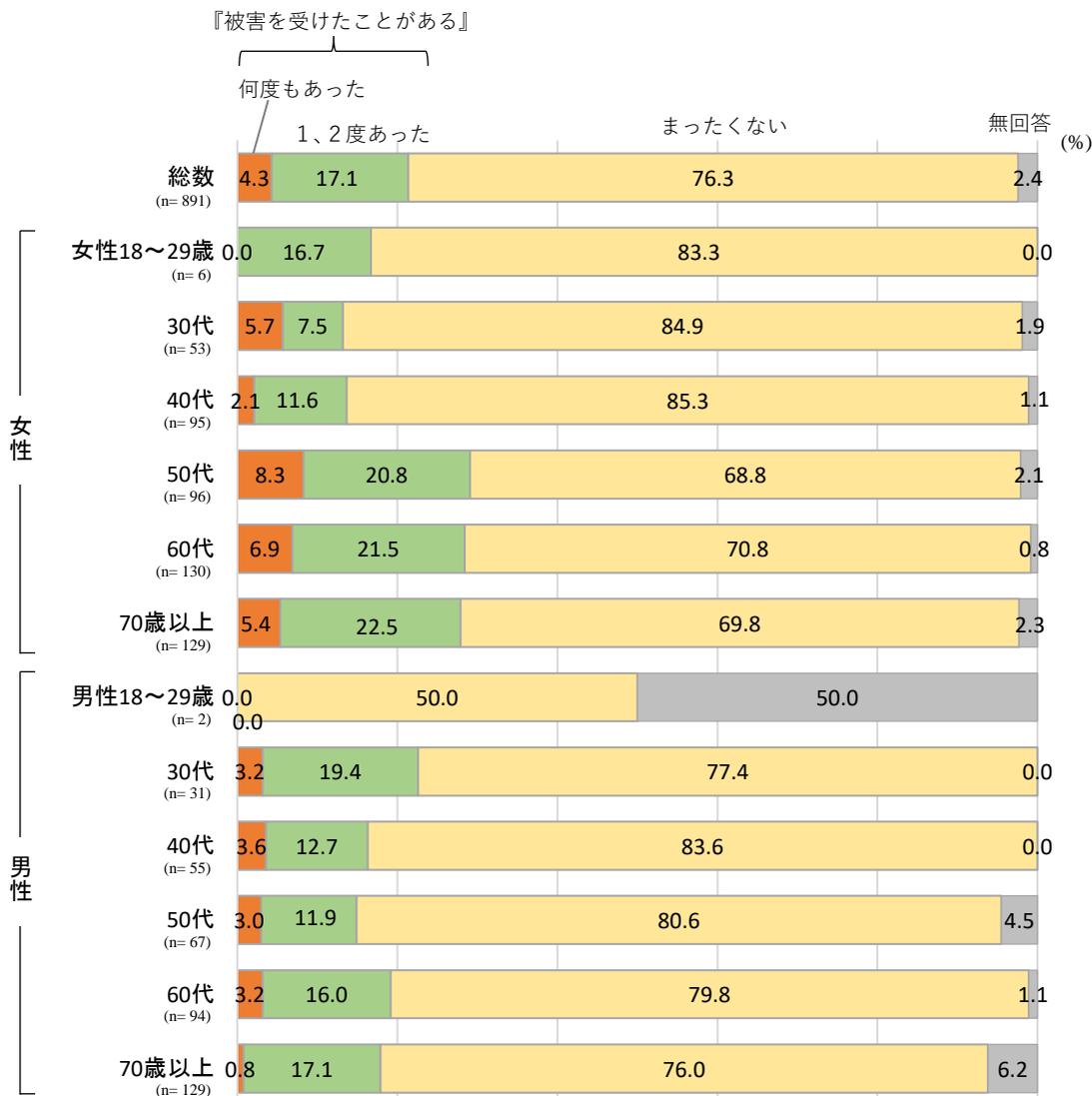
#### 【性×年代別】

※男女とも18～29歳についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。

女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は、50代以上で3割弱を占め、他の年代と比べ多くなっている。

男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は30代以上でいずれも1割以上となっており、30代(22.6%)では2割を超えている。

図17-2 配偶者からの被害経験の有無 (a) 身体的暴行(年代別)



## 2 配偶者からの被害経験の有無

### (b) 心理的攻撃

(例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫など)

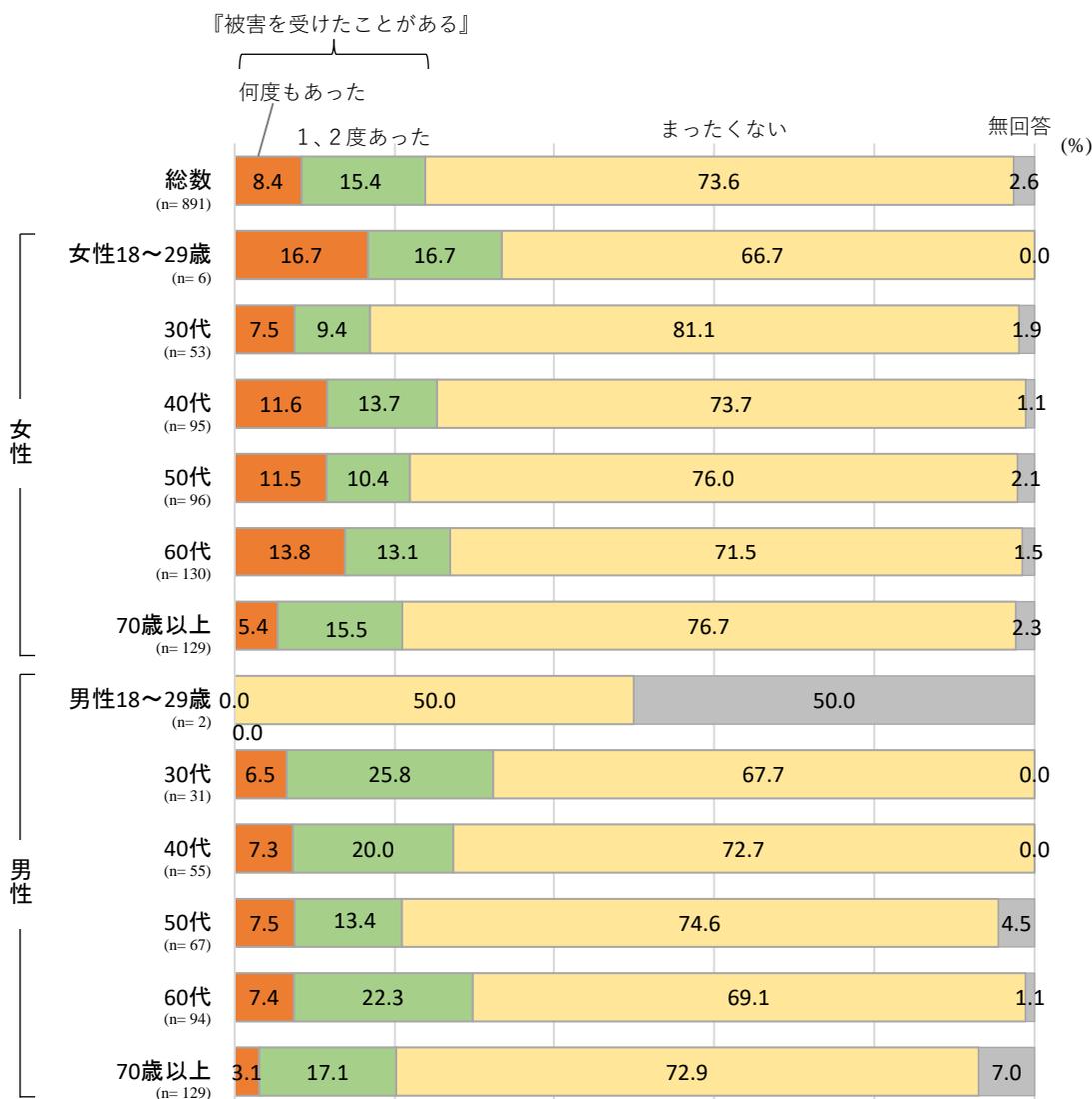
#### 【性×年代別】

※男女とも18～29歳についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。

女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計が、40代（25.3%）と60代（26.9%）で多くなっている。

男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計が、30代（32.3%）で多くなっている。

図17-3 配偶者からの被害経験の有無 (b) 心理的攻撃 (年代別)



## 2 配偶者からの被害経験の有無

### (c) 経済的圧迫

(例えば、生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど)

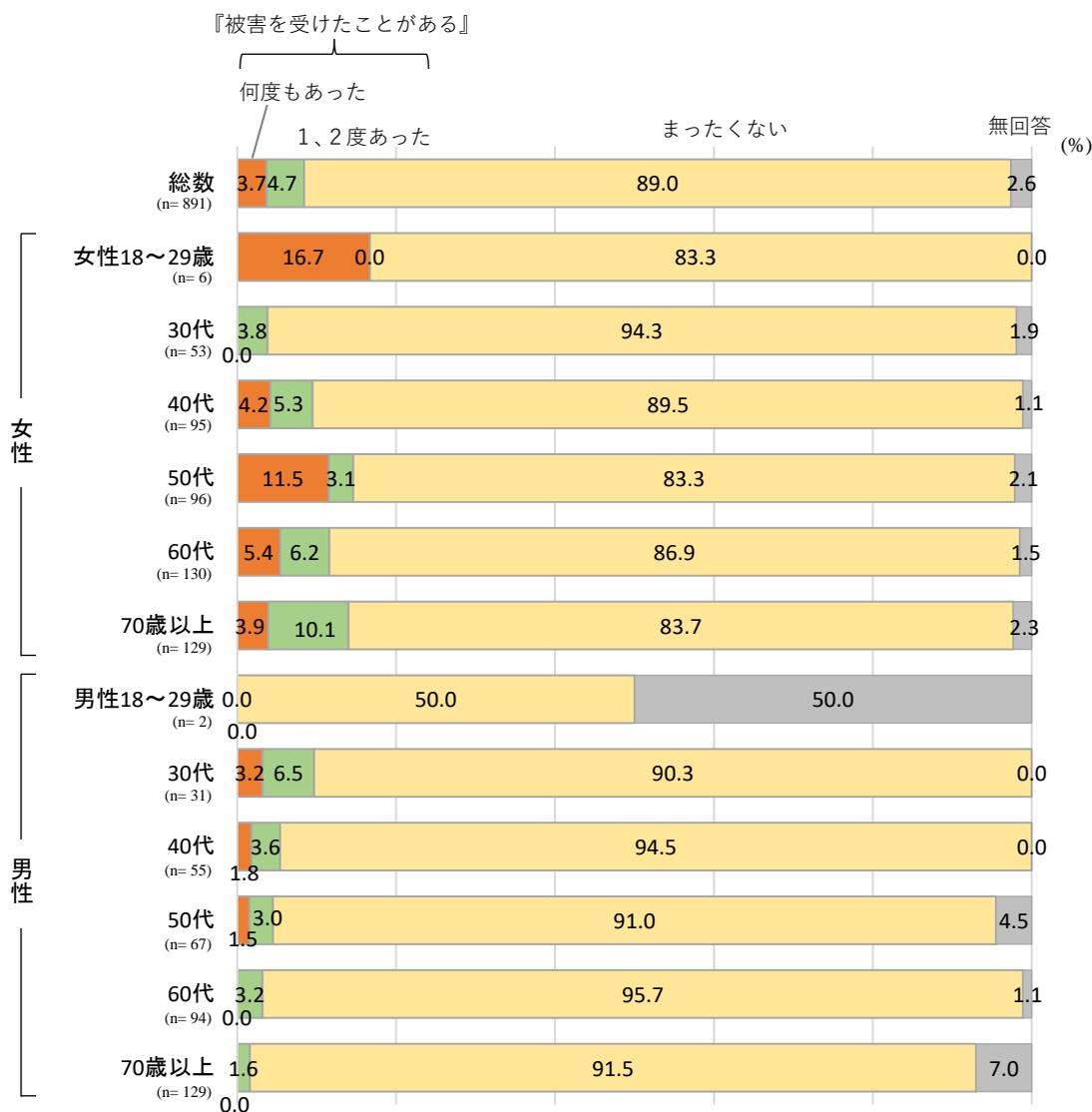
#### 【性×年代別】

※男女とも18～29歳についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。

女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は50代（14.6%）と70歳以上（14.0%）で多くなっている。

男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は30代から70歳以上で1割を下回っている。

図17-4 配偶者からの被害経験の有無 (c) 経済的圧迫 (年代別)



## 2 配偶者からの被害経験の有無

### (d) 性的強要

(例えば、嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど)

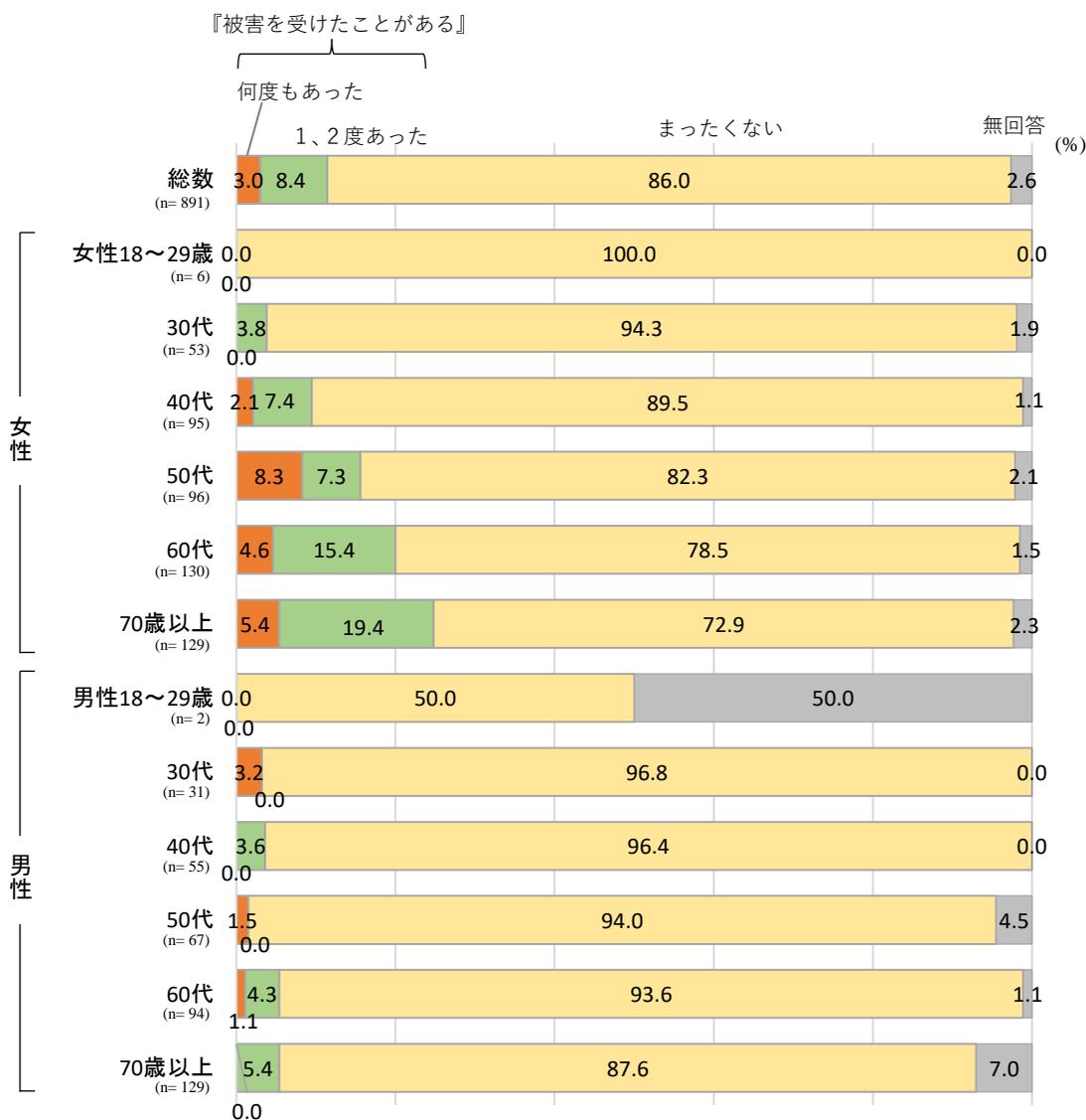
#### 【性×年代別】

※男女とも18～29歳についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。

女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は70歳以上（24.8%）で最も多く、年代が高いほど、被害を受けた割合が高くなっている。

男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計はいずれの年代も1割を下回っている。

図17-5 配偶者からの被害経験の有無 (d) 性的強要 (年代別)



## 2 配偶者からの被害経験の有無・まとめ

### 【令和2年度調査との比較】

女性では、「何度もあった」は1.6ポイント、「1、2度あった」は1.8ポイント、合計3.4ポイント多くなっている。

男性では、「何度もあった」は1.4ポイント、「1、2度あった」は4.6ポイント多く、合計で6.0ポイント多くなっている。

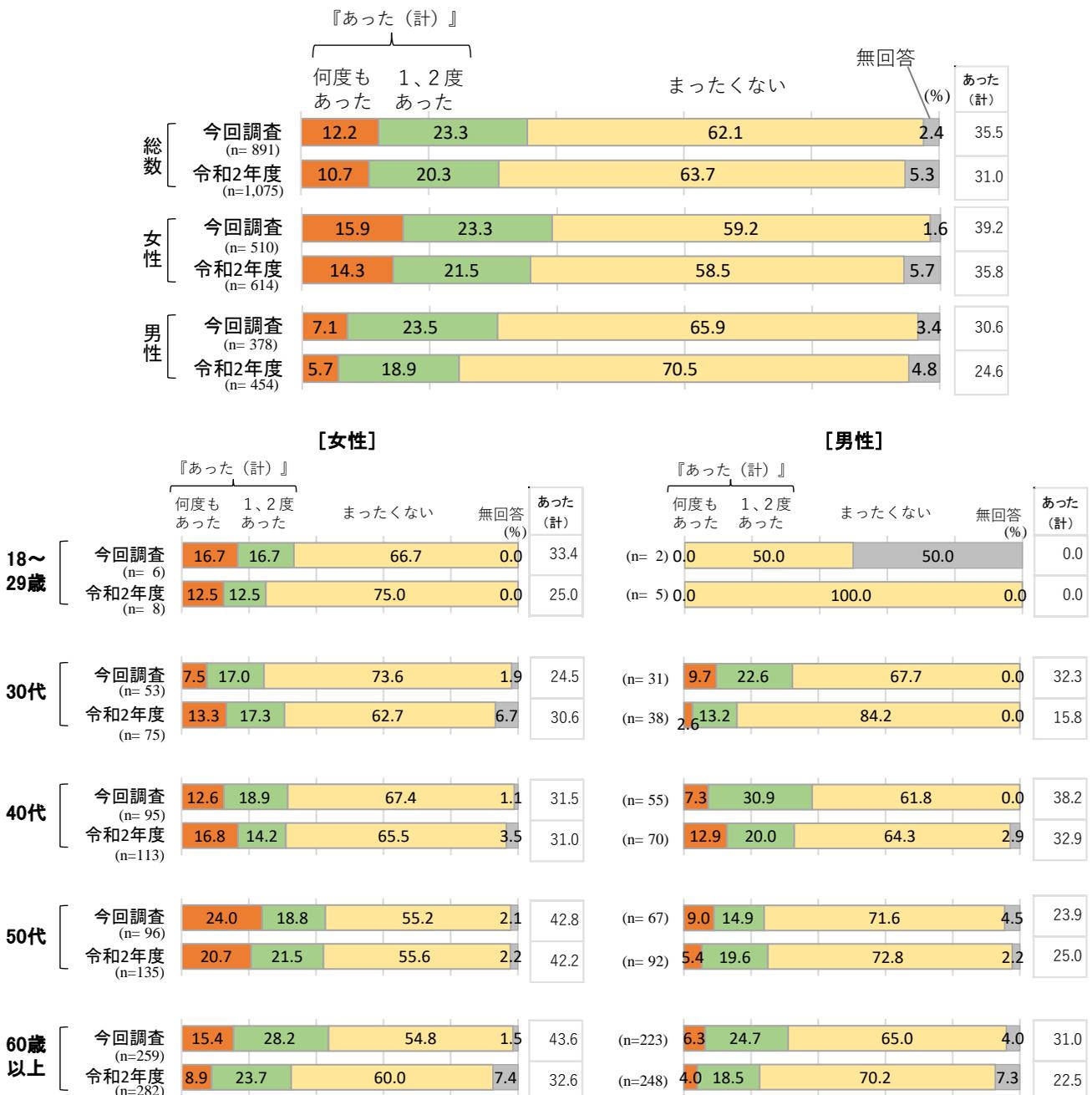
### 【性×年代別】

※男女とも18～29歳については、サンプル数が少ないため、参考掲載とする。

女性では、『あった（計）』は、60歳以上で11.0ポイント、令和2年度調査より多くなっている。

男性では、『あった（計）』は、30代で16.5ポイント、60歳以上で8.5ポイント、令和2年度調査より多くなっている。

図17-6 配偶者からの被害経験の有無 【令和2年度調査との比較】



## 2 配偶者からの被害経験の有無・まとめ

### 【令和5年度内閣府調査との比較】

女性では、「何度もあった」は2.7ポイント、「1、2度あった」は9.0ポイント、合計11.7ポイント多くなっている。

男性では、「何度もあった」は0.1ポイント少ないが、「1、2度あった」は8.8ポイント多く、合計で8.7ポイント多くなっている。

### 【性×年代別】

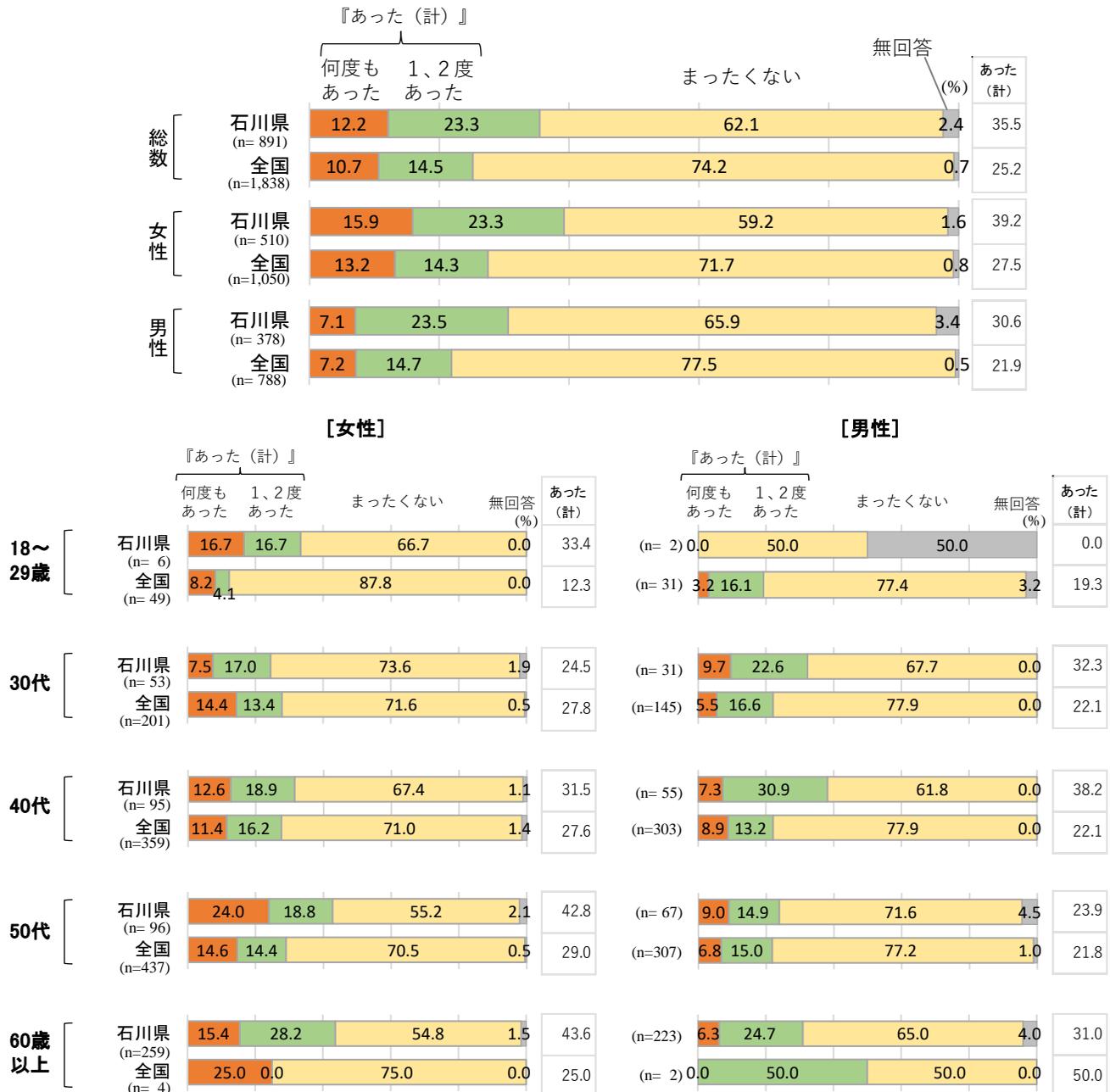
※男女とも石川県の18～29歳、全国の60歳以上については、サンプル数が少ないため、参考掲載とする。

女性では、『あった(計)』は、50代で13.8ポイント、内閣府調査より多くなっている。

男性では、『あった(計)』は、40代で16.1ポイント、30代で10.2ポイント、内閣府調査より多くなっている。

図17-7 配偶者からの被害経験の有無 【令和5年度内閣府調査との比較】

(内閣府が令和5年度に実施した「男女間における暴力に関する調査」の調査結果と比較をする。)



## 2 配偶者からの被害経験の有無 被害の内容

配偶者からの被害経験の有無について、被害の内容を見ると、女性では「身体的暴行のみ」(6.5%)が最も多く、次いで「身体的暴行と心理的攻撃」(5.3%)、「心理的攻撃のみ」(4.9%)、「身体的暴行・心理的攻撃・経済的圧迫・性的強要」(3.9%)と続き、被害の重複もみられる。

男性では、「心理的攻撃のみ」(10.1%)「身体的暴行と心理的攻撃」(8.5%)、「身体的暴行のみ」(4.8%)と続き、男女ともに被害の重複がみられる。

女性の方が「身体的暴行・心理的攻撃・経済的圧迫・性的強要」で男性よりも3.4ポイント多く、男性では、「心理的攻撃のみ」で女性より5.2ポイント多くなっている。

図17-8 配偶者からの被害経験の有無（性別）

(%)

		n	身体的暴行のみ	心理的攻撃のみ	経済的圧迫のみ	性的強要のみ	身体的暴行と心理的攻撃	身体的暴行と経済的圧迫	身体的暴行と性的強要	心理的攻撃と経済的圧迫	心理的攻撃と性的強要	経済的圧迫と性的強要	身体的暴行・経済的圧迫・心理的攻撃	身体的強要・心理的攻撃	身体的強要・経済的圧迫	性的強要・経済的圧迫	身体的暴行・経済的圧迫・性的強要	身体的暴行・心理的攻撃・性的強要	経済的圧迫・心理的攻撃・性的強要	身体的暴行・経済的圧迫・心理的攻撃・性的強要	まったくない	無回答
総数		891	5.7	7.1	1.3	2.2	6.6	0.3	1.6	1.1	1.6	0.3	1.9	2.4	0.2	0.6	2.6	62.1	2.4			
性別	女性	510	6.5	4.9	2.4	3.3	5.3	0.6	2.4	1.4	1.8	0.6	1.6	3.3	0.4	1.0	3.9	59.2	1.6			
	男性	378	4.8	10.1	-	0.8	8.5	-	0.5	0.8	1.3	-	2.4	1.1	-	-	0.5	65.9	3.4			

### 3 配偶者からの暴力についての相談経験の有無・相談先

【問17で(a)～(d)のうち1つでも「2. 1、2度あった」「3. 何度もあった」と答えた方にお聞きします。】

問17-1 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から受けたそのような行為について、どこ（だれ）かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

配偶者から被害を受けたことが「これまでにあった」と答えた人に、どこ（だれ）かに打ち明けたり、相談したことがあるかをたずねたところ、「相談した」と答えた人は36.9%、「相談しなかった」は53.6%で、「相談しなかった」方が16.7ポイント多かった。性別で見ると、「相談しなかった」は男性（63.8%）が女性（48.0%）より15.8ポイント多くなっている。

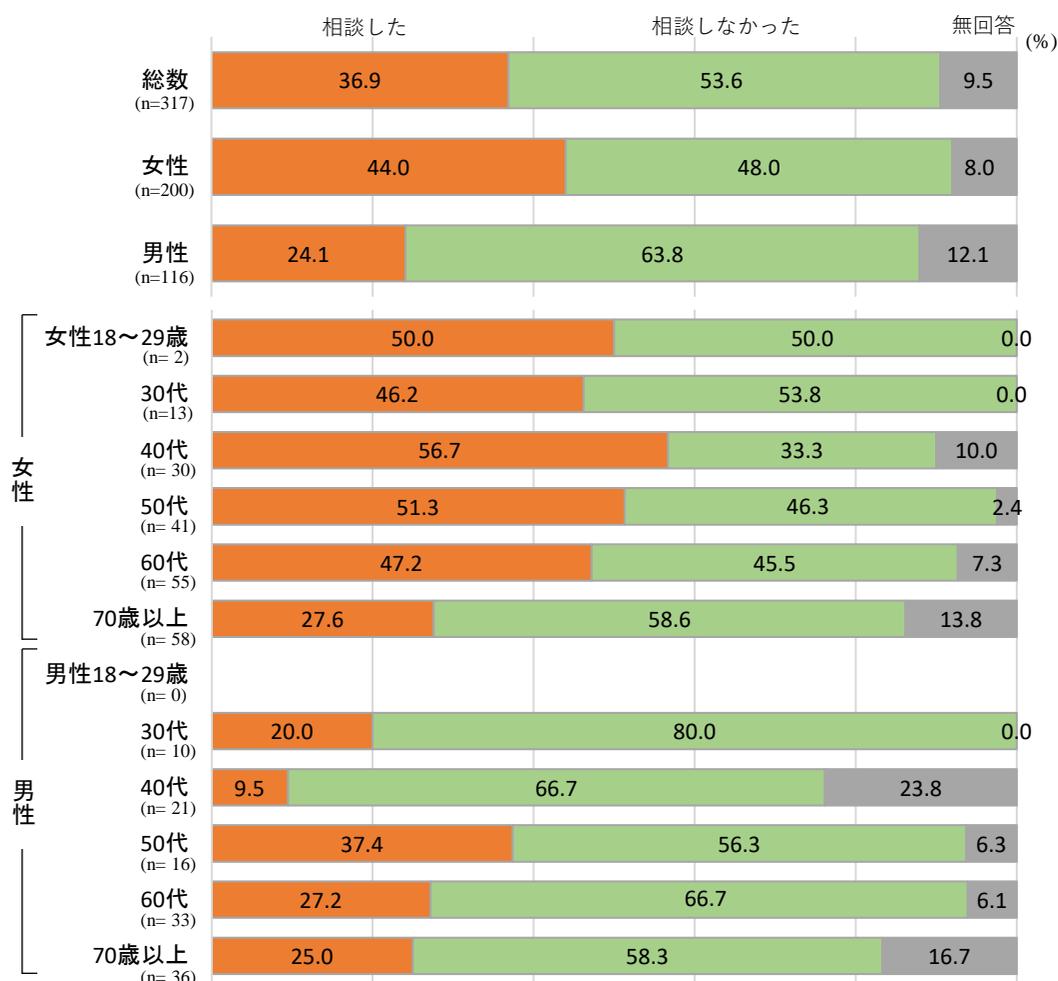
#### 【性×年代別】

※男女とも18～29歳については、サンプル数が少ないため、参考掲載とする。

女性では、「相談した」が70歳以上を除き、4割を超えている。

男性では、「相談した」が40代を除き、2割を超えている。

図17-1-1 配偶者からの暴力についての相談経験の有無 項目別一覧（性別、性×年代別）



### 3 配偶者からの暴力についての相談経験の有無・相談先

相談した人のうち、どこ（だれ）に相談したかを見ると、女性では「家族や親戚」（28.5%）、次いで「知人、友人」（24.5%）の順で、それ以外は3%未満となっている。男性では「家族や親戚」（12.1%）、次いで「知人、友人」（10.3%）の順で、それ以外は4%未満となっている。

#### 【性×年代別】

※男女とも18～29歳についてはサンプル数が少ないため、参考掲載とする。

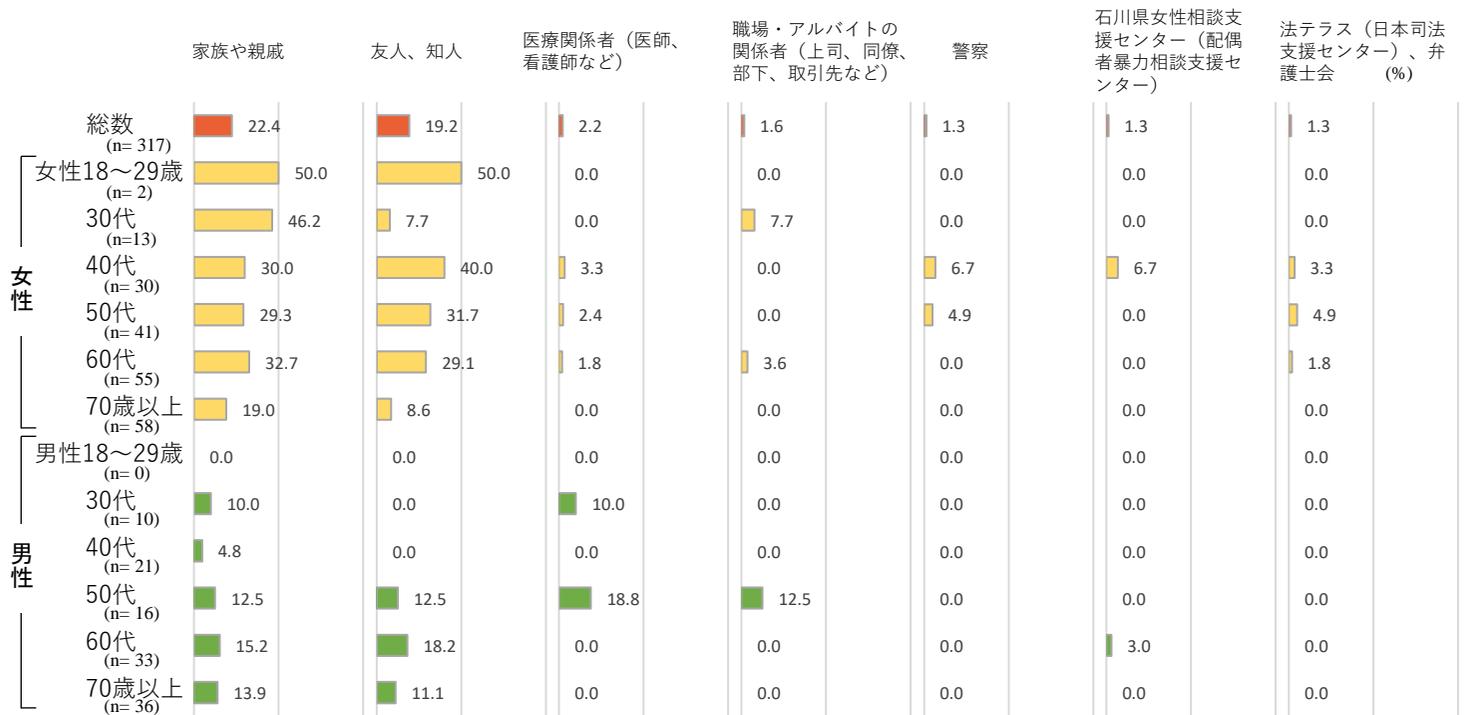
女性では「家族や親戚」と「知人、友人」が総じて多い。

男性では「家族や親戚」、「知人、友人」以外に「医療関係者」もあがっている。

図17-1-2 配偶者からの暴力についての相談先 項目別一覧（性別）



図17-1-3 配偶者からの暴力についての相談先 項目別一覧（性×年代別）



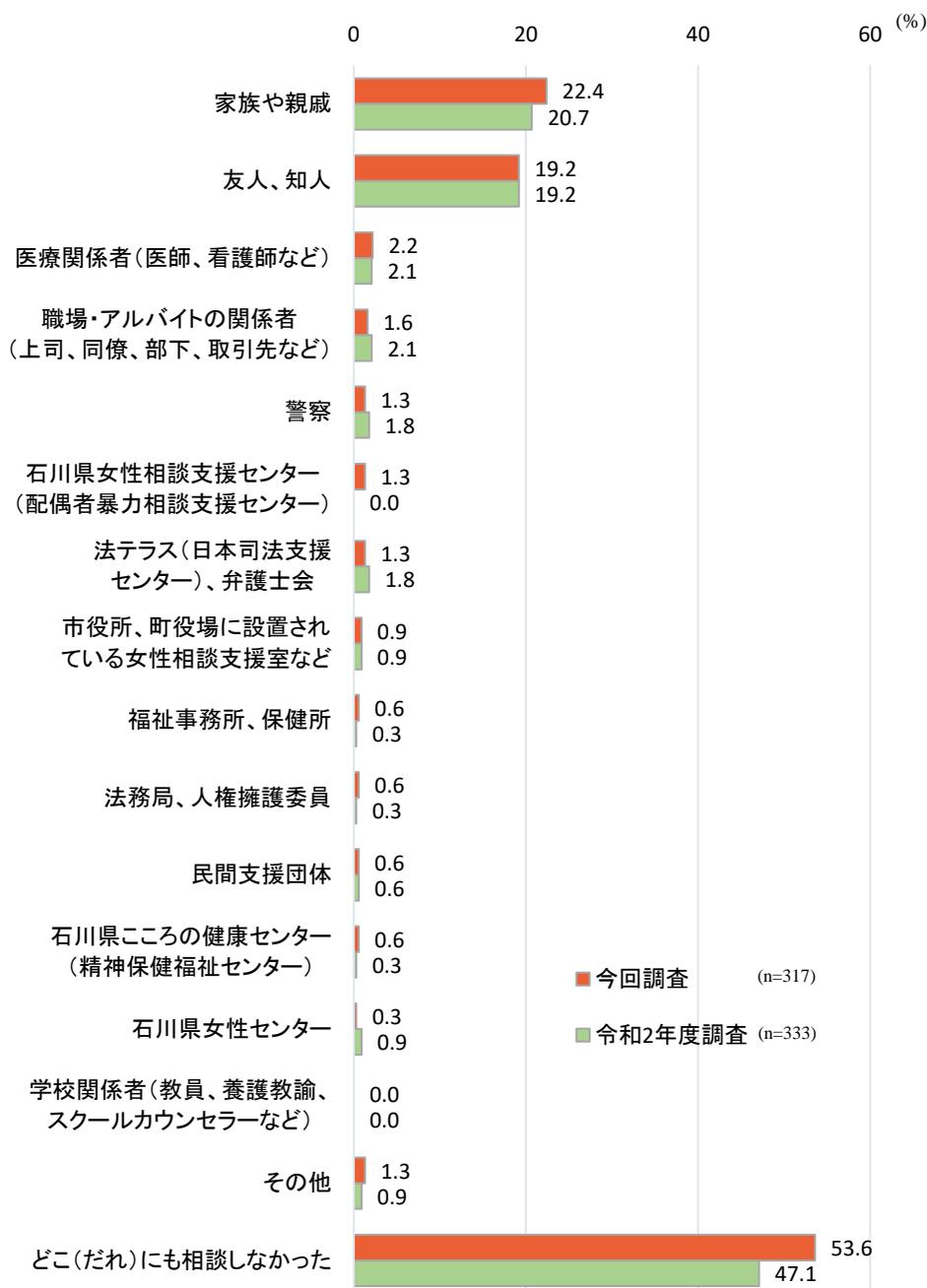
### 3 配偶者からの暴力についての相談経験の有無・相談先

#### 【令和2年度調査との比較】

「家族や親戚」は1.7ポイント増加したが、それ以外に1ポイント以上の増減は見られなかった。

「どこ（だれ）にも相談しなかった」は6.5ポイント増加している。

図17-1-4 配偶者からの暴力についての相談先 【令和2年度調査との比較】



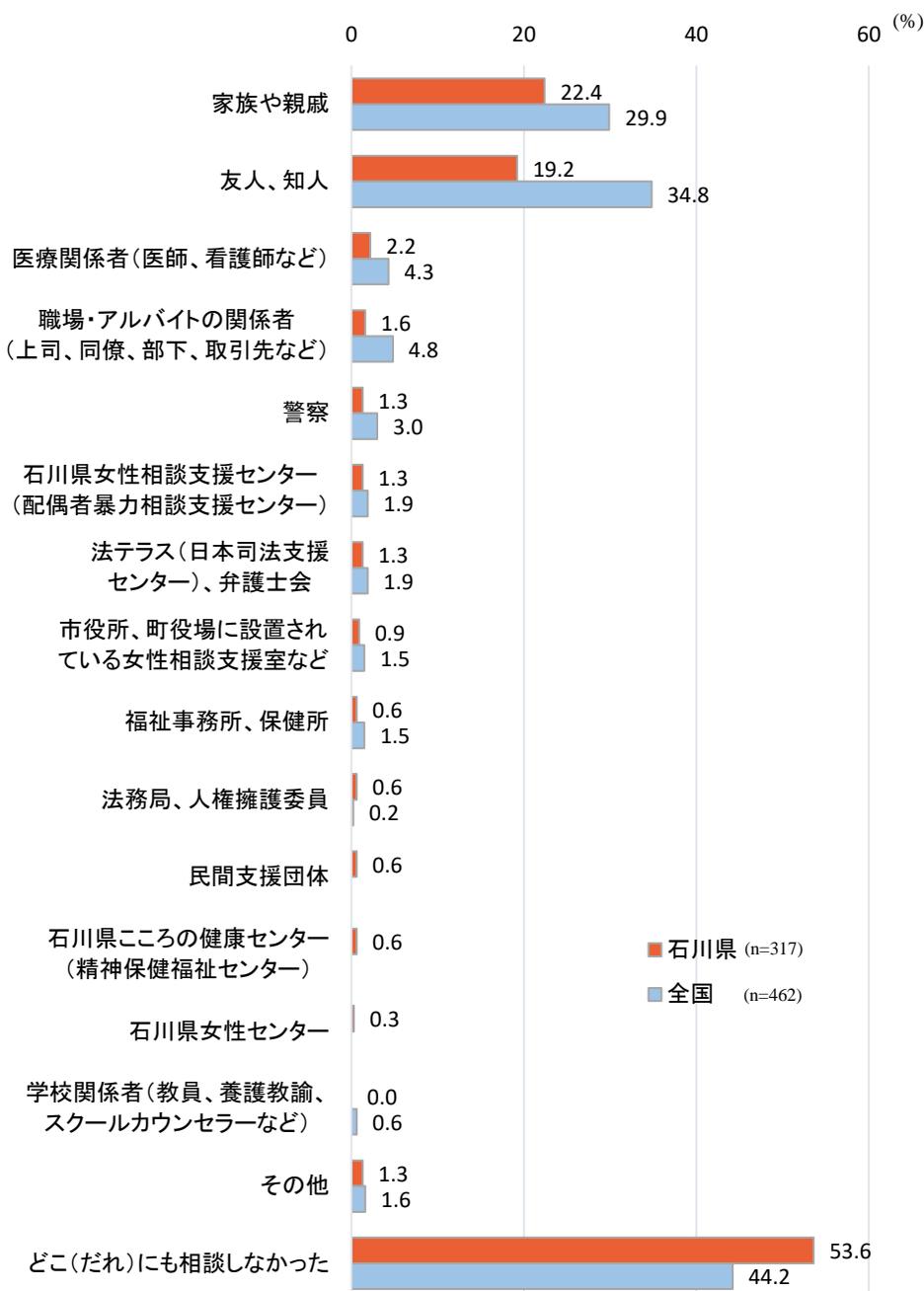
### 3 配偶者からの暴力についての相談経験の有無・相談先

#### 【令和5年度内閣府調査との比較】

全般的に、相談している割合が低く、特に「友人、知人」(-15.6ポイント)、「家族や親戚」(-7.5ポイント)で、内閣府調査を大きく下回っている。

また、「どこ(だれ)にも相談しなかった」割合は、内閣府調査を9.4ポイント上回っている。

図17-1-5 配偶者からの暴力についての相談先 【令和5年度内閣府調査との比較】



#### 4 配偶者からの暴力について相談しなかった理由

【問17-1で「16. どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。】

問17-2 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

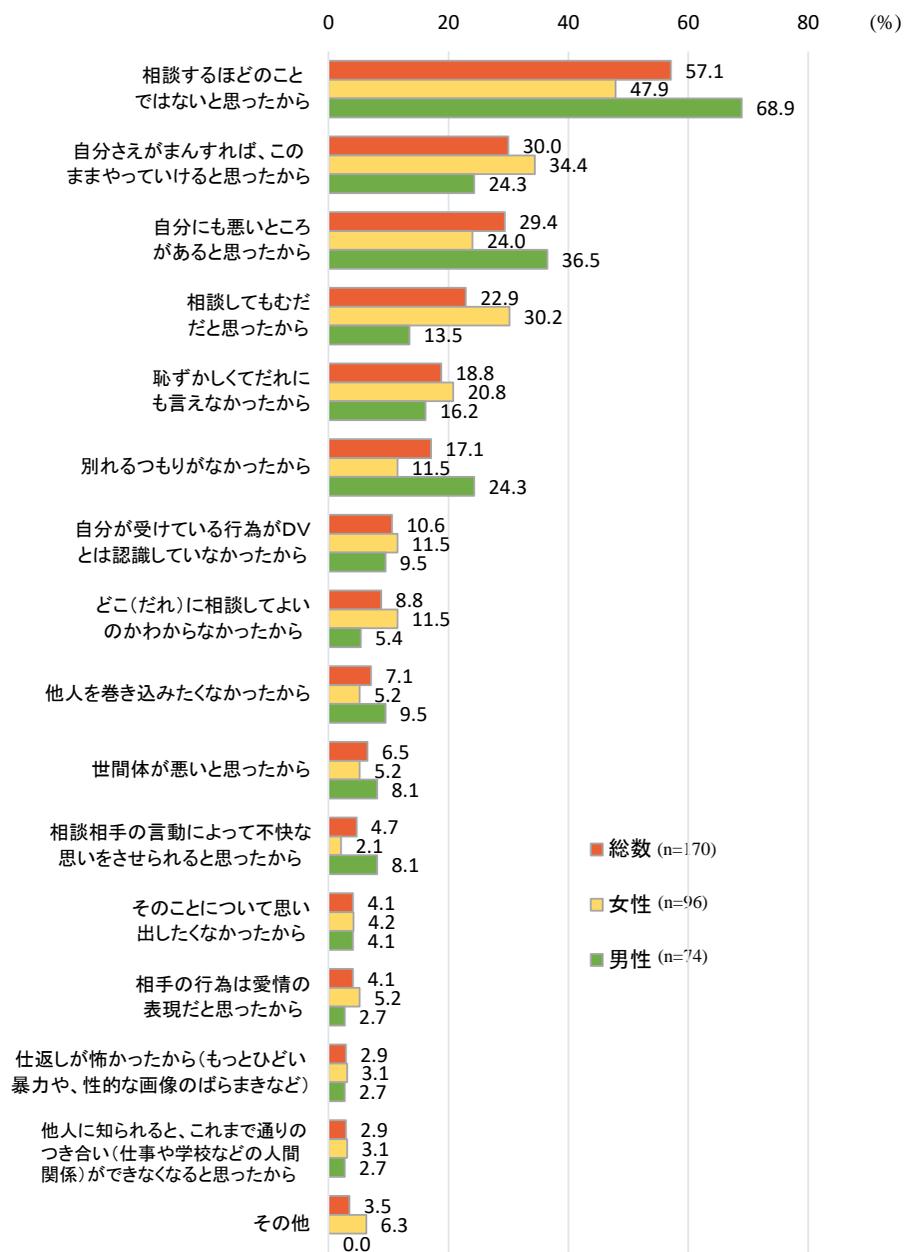
配偶者から被害を受けながら「相談しなかった」と答えた人に、その理由をたずねたところ、男女ともに最も多かったのが「相談するほどのことではないと思ったから」（女性47.9%、男性68.9%）であった。

次いで、女性では「自分さえがまんすれば、このままやっていけると思ったから」（34.4%）「相談してもむだだと思ったから」（30.2%）、「自分にも悪いところがあると思ったから」（24.0%）と続く。

男性では「自分にも悪いところがあると思ったから」（36.5%）、「自分さえがまんすれば、このままやっていけると思ったから」（24.3%）、「別れるつもりがなかったから」（24.3%）と続く。

男女の違いで特徴的なのは、「相談してもむだだと思ったから」では女性の方が16.7ポイント多くなっている。「相談するほどのことではないと思ったから」では男性の方が21.0ポイント多くなっている。

図17-2-1 配偶者からの暴力について相談しなかった理由 項目別一覧（性別）



## 5 交際相手からの被害経験の有無

【これまでに交際相手がいた方にお聞きします。】

問18 あなたは、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。(a)～(d)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれいくつでも)

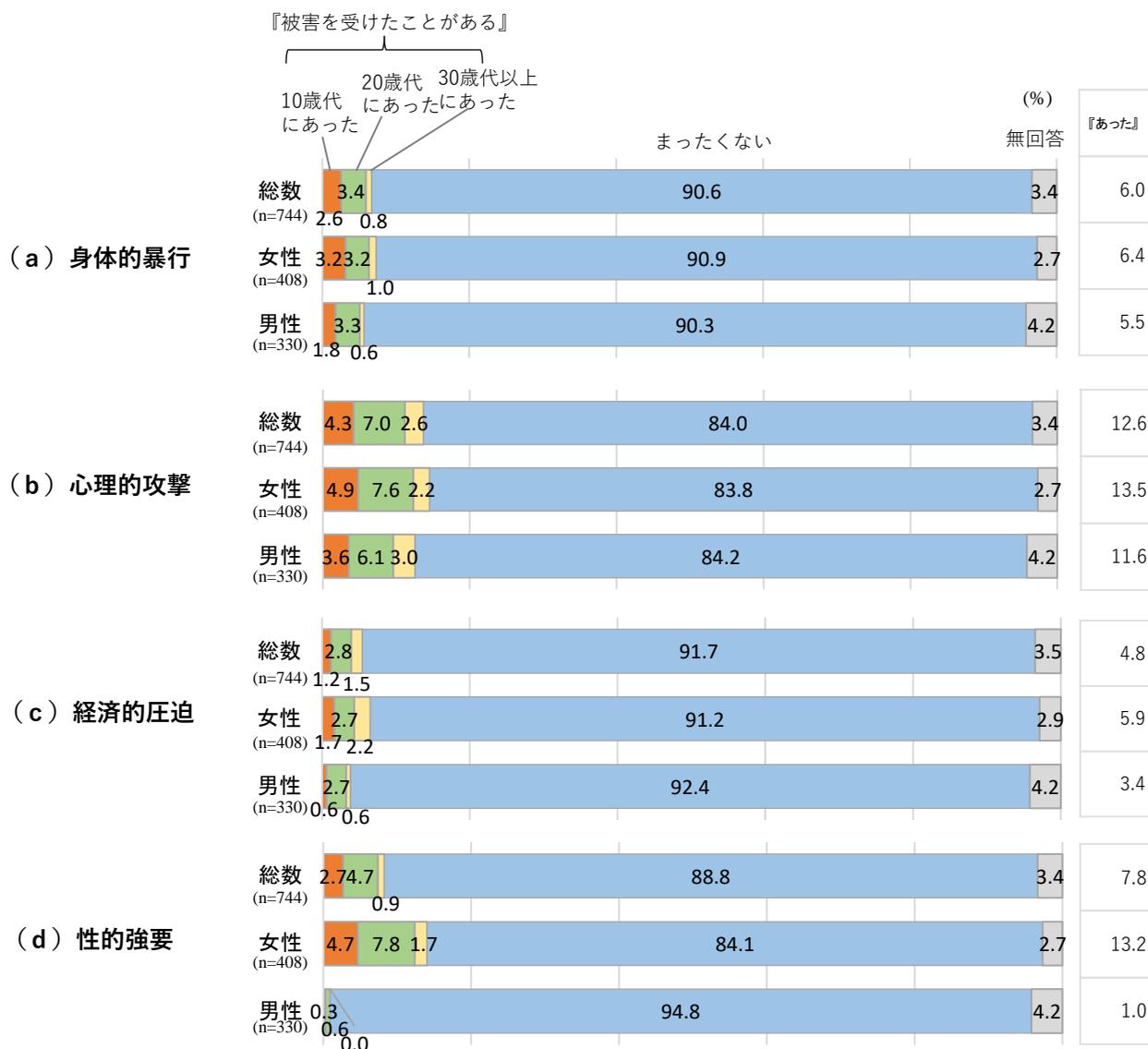
“ (a) 身体的暴行”は「10歳代にあった」が2.6%、「20歳代にあった」が3.4%、「30歳代以上にあった」が0.8%となっている。

“ (b) 心理的攻撃”は「10歳代にあった」が4.3%、「20歳代にあった」が7.0%、「30歳代以上にあった」が2.6%となっている。

“ (c) 経済的圧迫”は「10歳代にあった」が1.2%、「20歳代にあった」が2.8%、「30歳代以上にあった」が1.5%となっている。

“ (d) 性的強要”は「10歳代にあった」が2.7%、「20歳代にあった」が4.7%、「30歳代以上にあった」が0.9%となっている。

図18-1 交際相手からの被害経験の有無 項目別一覧 (性別)



※複数の項目を選択している場合があるため、合計値が100%を超える場合がある。以降のページも同様。  
コメント内の被害を受けたことが『あった』は、母数から「まったくない」と「無回答」を差し引き算出。

## 5 交際相手からの被害経験の有無

### (a) 身体的暴行

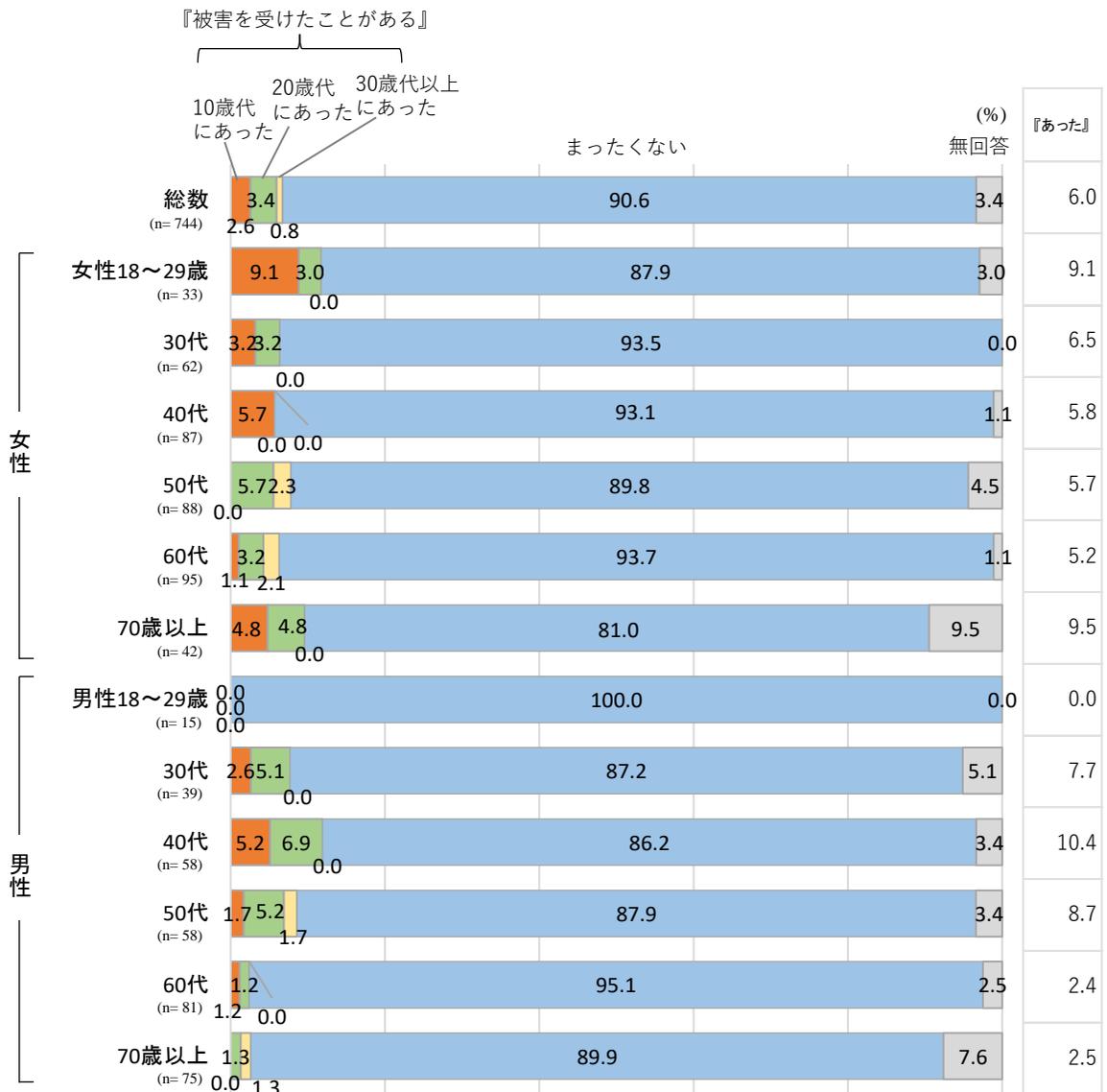
(例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行)

#### 【性×年代別】

女性では、『あった』が最も多かったのは、70歳以上（9.5%）、次いで、18~29歳（9.1%）で、最も少なかったのが60代（5.2%）だった。

男性では、『あった』が最も多かったのは、40代（10.4%）、次いで、50代（8.7%）で、最も少なかったのが18~29歳（0%）だった。

図18-2 交際相手からの被害経験の有無 (a) 身体的暴行 (年代別)



## 5 交際相手からの被害経験の有無

### (b) 心理的攻撃

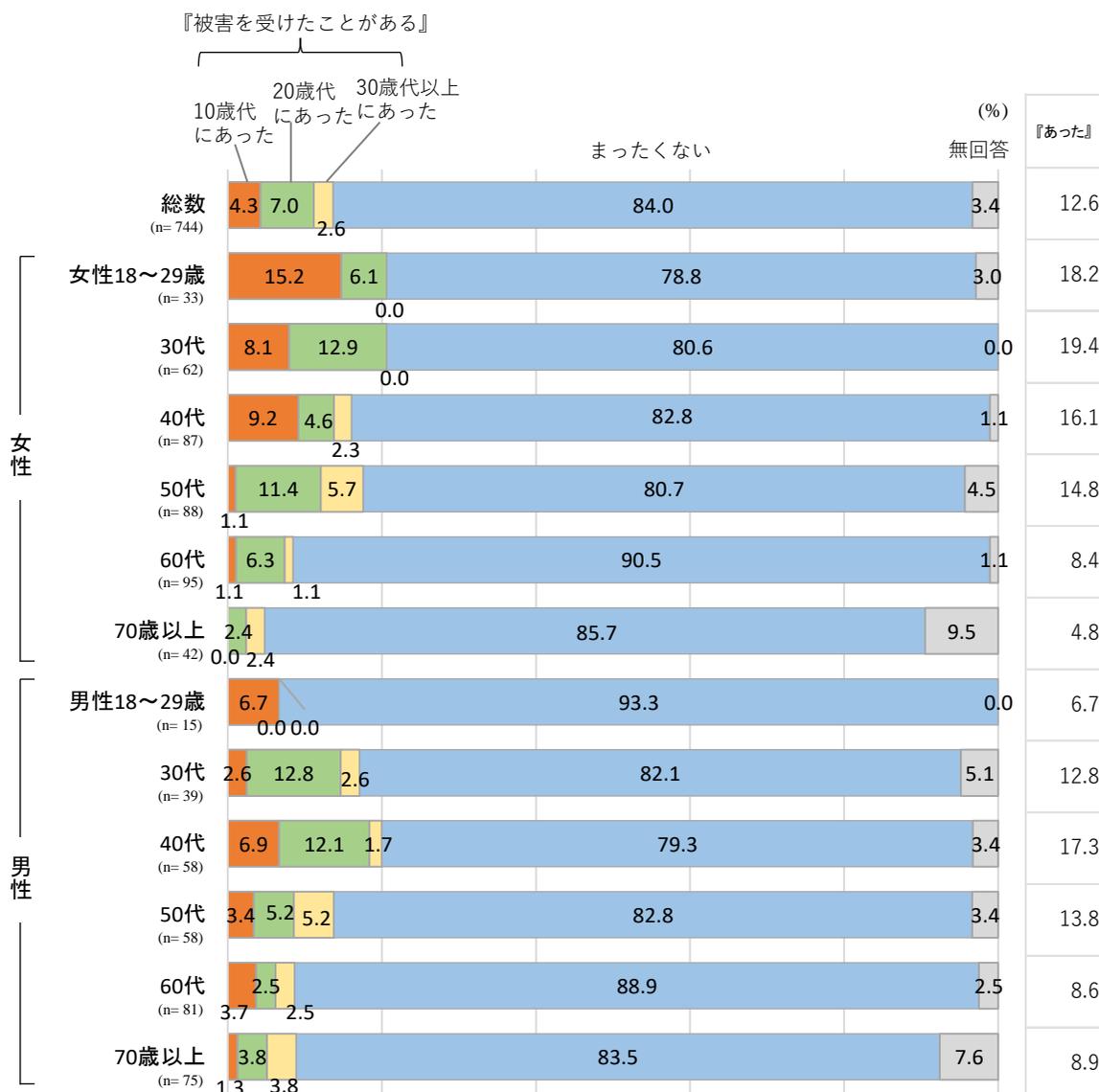
(例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫など)

#### 【性×年代別】

女性では、『あった』が最も多かったのは、30代(19.4%)、次いで、18~29歳(18.2%)で、最も少なかったのが70歳以上(4.8%)だった。

男性では、『あった』が最も多かったのは、40代(17.3%)、次いで、50代(13.8%)で、最も少なかったのが18~29歳(6.7%)だった。

図18-3 交際相手からの被害経験の有無 (b) 心理的攻撃(年代別)



## 5 交際相手からの被害経験の有無

### (c) 経済的圧迫

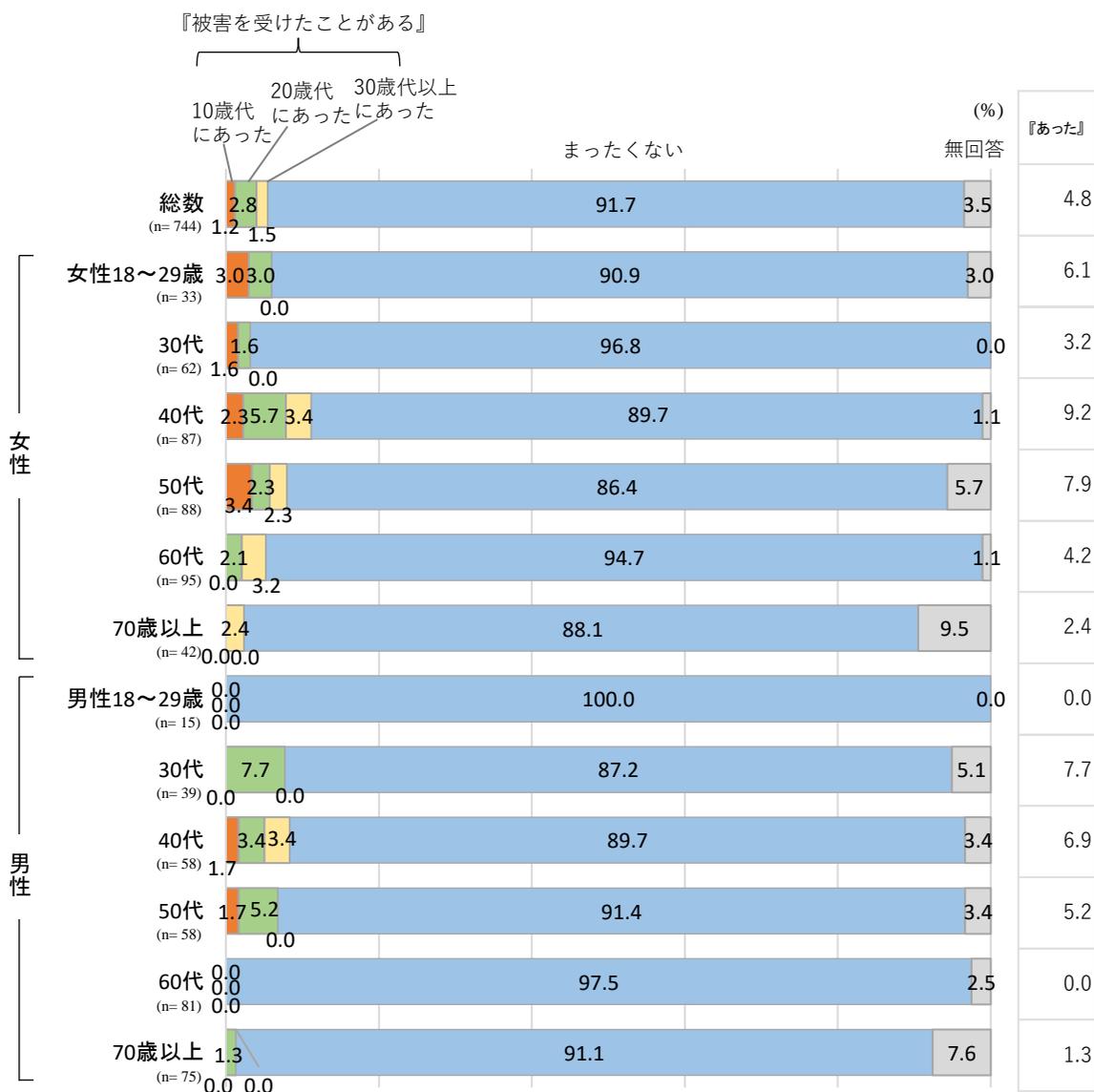
(例えば、生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど)

#### 【性×年代別】

女性では、『あった』が最も多かったのは、40代（9.2%）、次いで、50代（7.9%）で、最も少なかったのが70歳以上（2.4%）だった。

男性では、『あった』が最も多かったのは、30代（7.7%）、次いで、40代（6.9%）で、最も少なかったのが18~29歳と60代（0%）だった。

図18-4 交際相手からの被害経験の有無 (c) 経済的圧迫 (年代別)



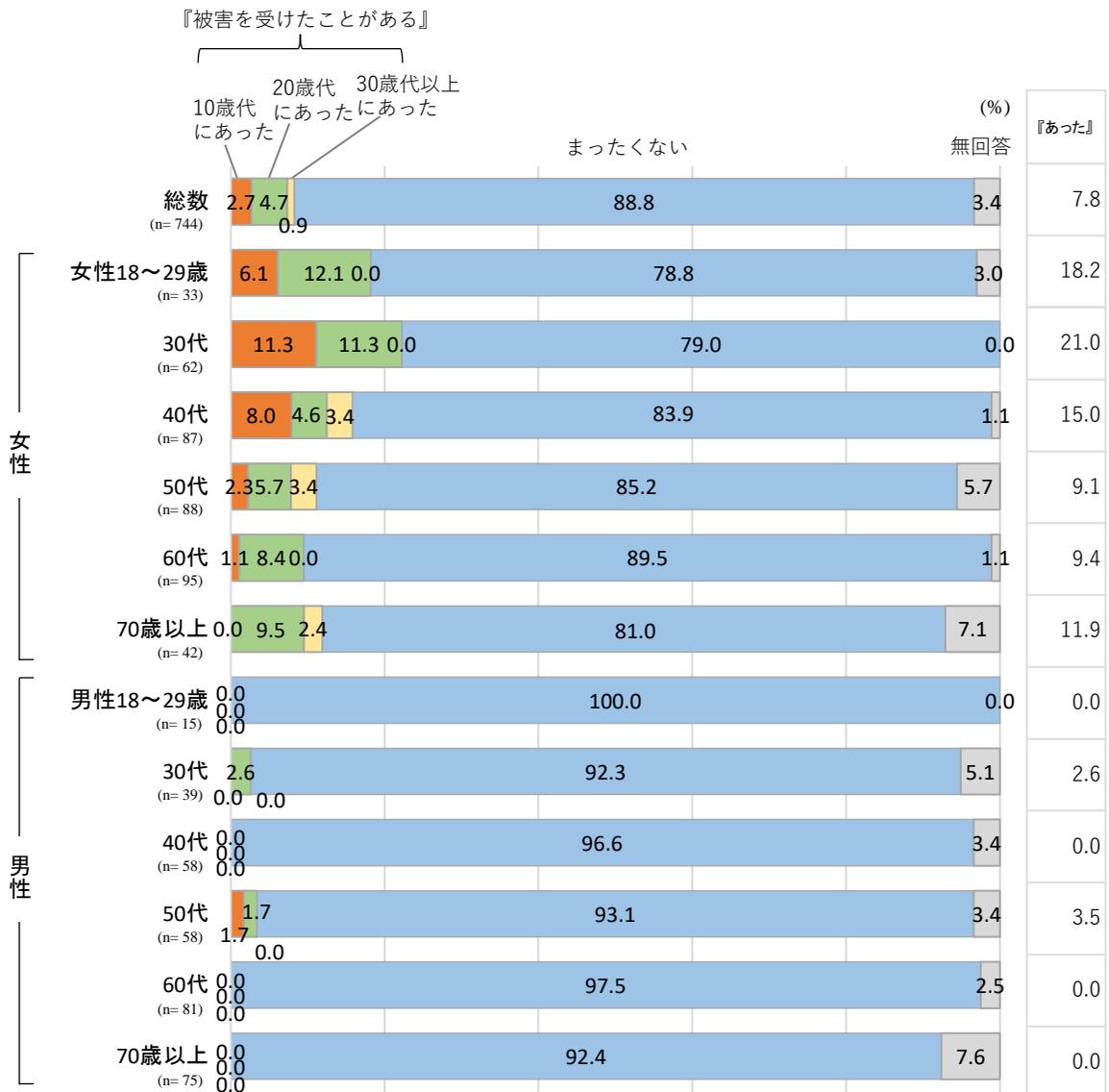
## 5 交際相手からの被害経験の有無

### (d) 性的強要

(例えば、嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど)

【性×年代別】  
 女性では、『あった』が最も多かったのは、30代 (21.0%)、次いで、18~29歳 (18.2%) で、最も少なかったのが50代 (9.1%) だった。  
 男性では、『あった』が最も多かったのは、50代 (3.5%)、次いで、30代 (2.6%) で、最も少なかったのが18~29歳、40代、60代、70歳以上 (0%) だった。

図18-5 交際相手からの被害経験の有無 (d) 性的強要 (年代別)



## 5 交際相手からの被害経験の有無・まとめ

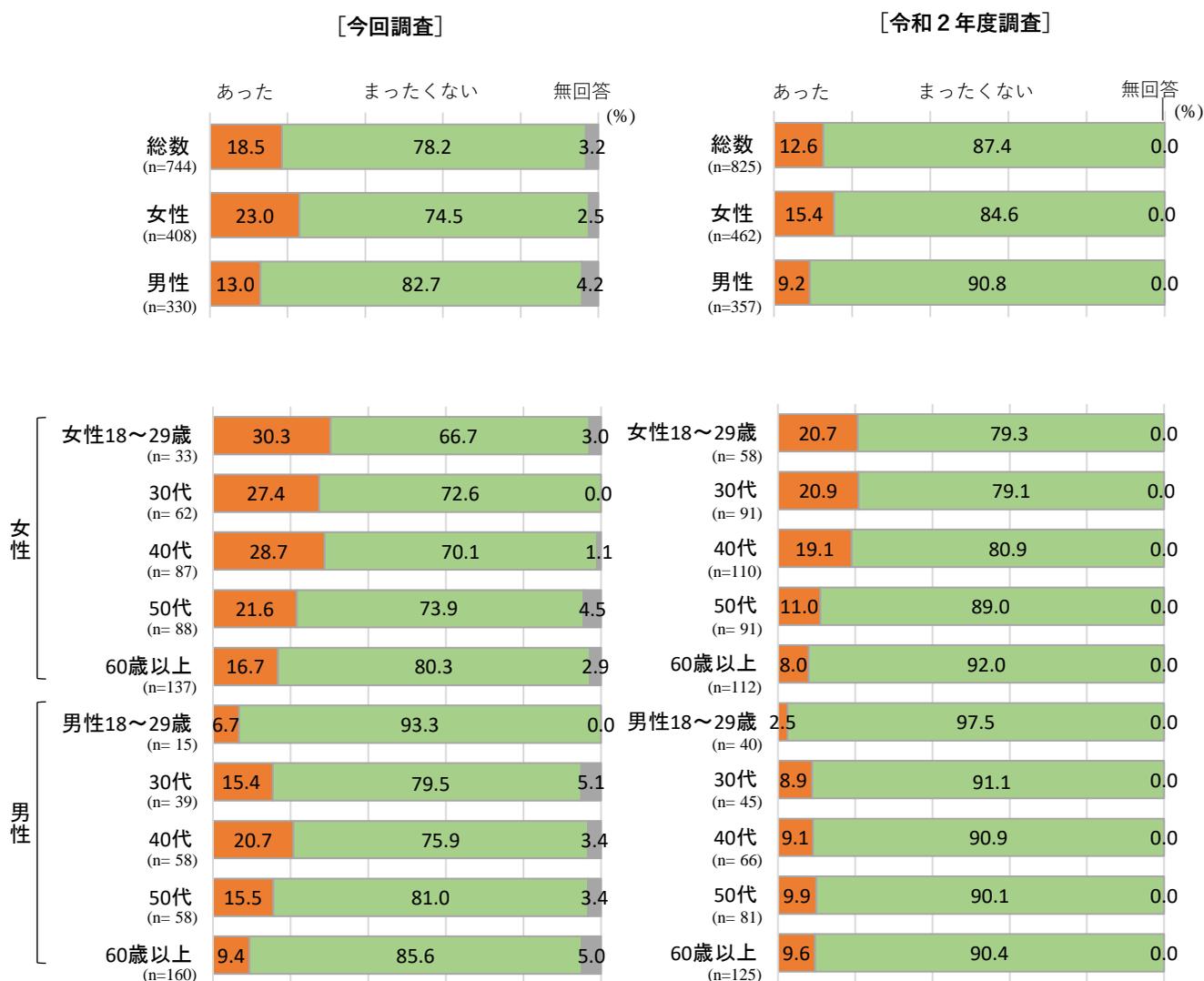
### 【令和2年度調査との比較】

前回調査と比べ、『あった』割合は、総数で5.9ポイント、性別で見ると、女性で7.6ポイント、男性で3.8ポイント多くなっている。

### 【性×年代別】

女性では、『あった』はいずれの年代でも前回調査より多くなっている。  
男性でも、『あった』は50代以下で、前回調査より多くなっている。

図18-6 交際相手からの被害経験の有無 【令和2年度調査との比較（性別、性×年代別）】



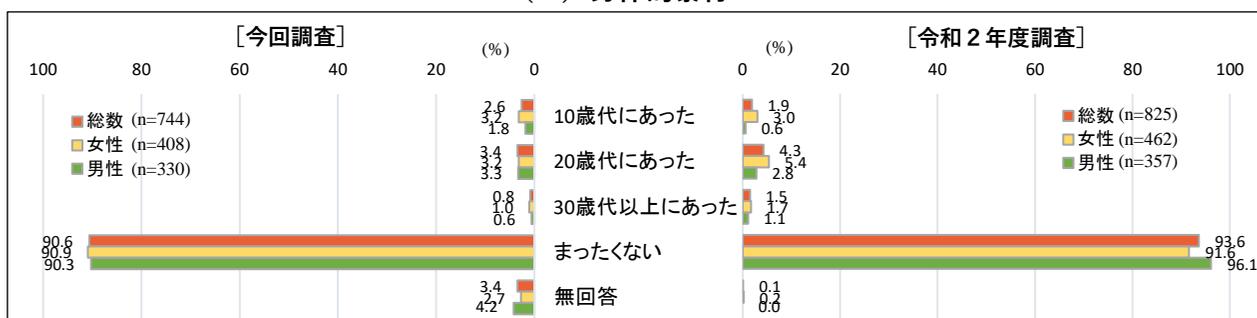
## 5 交際相手からの被害経験の有無・まとめ

### 【令和2年度調査との比較】

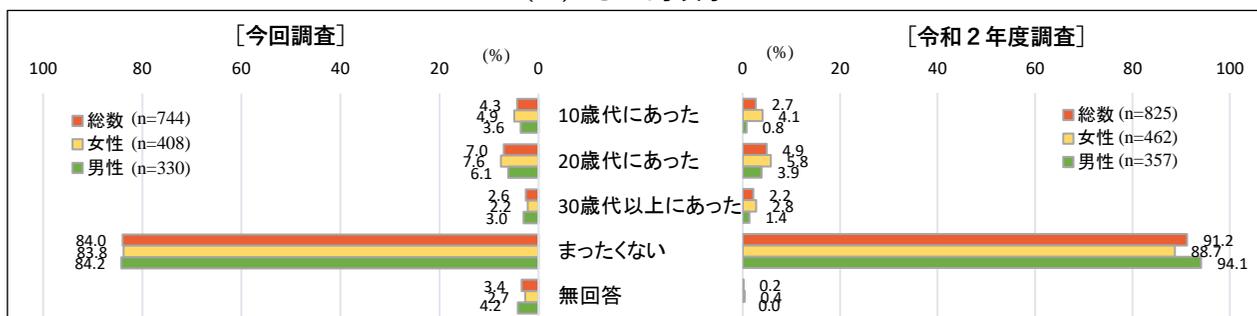
前回調査と比べ、「まったくない」の割合が、いずれの被害経験でも減少している。

図18-7 交際相手からの被害経験の有無 【令和2年度調査との比較（性別）】

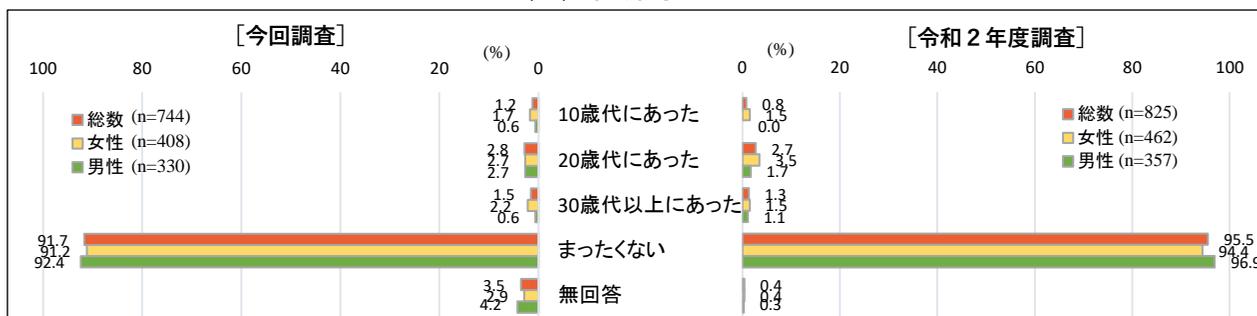
#### (a) 身体的暴行



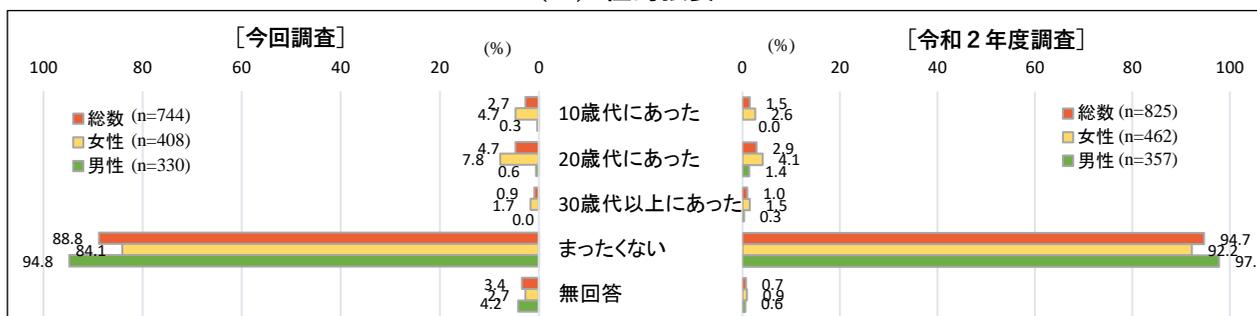
#### (b) 心理的攻撃



#### (c) 経済的圧迫



#### (d) 性的強要



## 5 交際相手からの被害経験の有無・まとめ

### 【令和5年度内閣府調査との比較】

総数、男女とも内閣府調査と差は見られない。

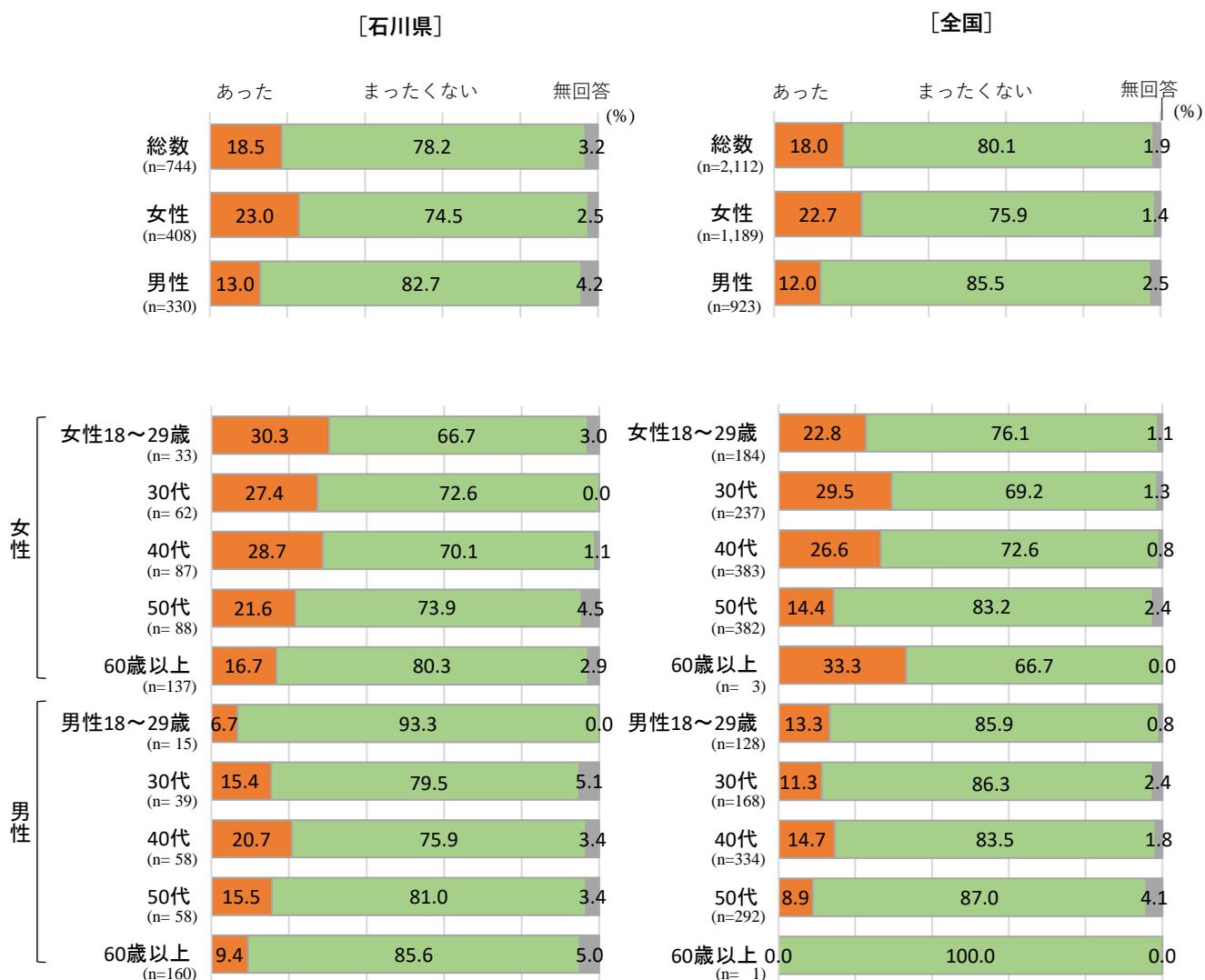
#### 【性×年代別】

※男女とも全国の60歳以上については、サンプル数が少ないため、参考掲載とする。

女性では、『あった』が40代以下で多い傾向は変わらない。

男性では、『あった』は30代から50代で、内閣府調査より多くなっている。

図18-8 交際相手からの被害経験の有無 【令和5年度内閣府調査との比較（性別、性×年代別）】



## 5 交際相手からの被害経験の有無・まとめ

### 【令和5年度内閣府調査との比較】

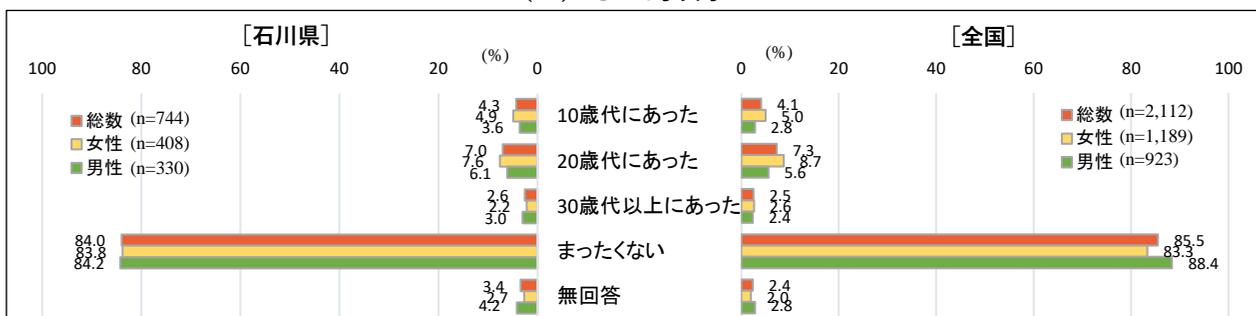
すべての項目で内閣府調査と大きな差異は見られない。

図18-9 交際相手からの被害経験の有無 【令和5年度内閣府調査との比較（性別）】

#### (a) 身体的暴行



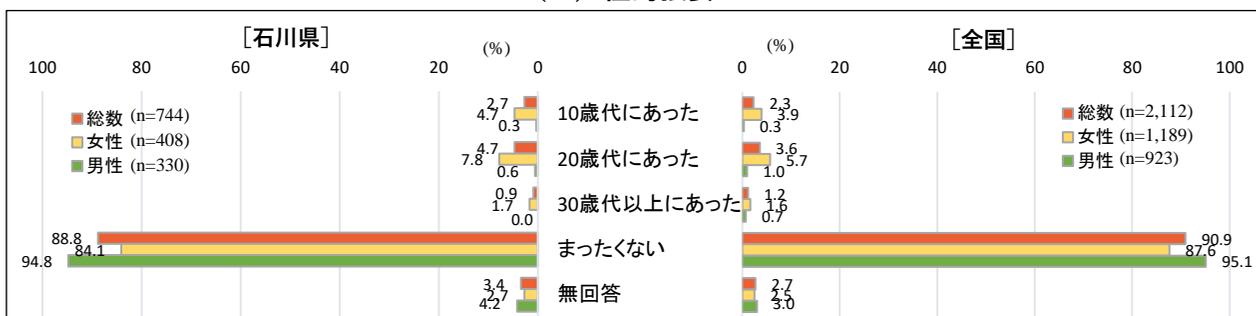
#### (b) 心理的攻撃



#### (c) 経済的圧迫



#### (d) 性的強要



## 5 交際相手からの被害経験の有無 被害の内容

交際相手からの被害経験の有無について、被害の内容を見ると、女性では「性的強要のみ」(4.9%)、「心理的攻撃のみ」(3.9%)、「心理的攻撃と性的強要」(3.7%)などが多くなっている。

男性では、「心理的攻撃のみ」(6.4%)が最も多く、次いで「身体的暴行と心理的攻撃」(1.8%)となっている。

図18-10 交際相手からの被害経験の有無(性別)

		n	身体的暴行のみ	心理的攻撃のみ	経済的圧迫のみ	性的強要のみ	身体的暴行と心理的攻撃	身体的暴行と経済的圧迫	身体的暴行と性的強要	心理的攻撃と経済的圧迫	心理的攻撃と性的強要	経済的圧迫と性的強要	身体的暴行・心理的攻撃・経済的圧迫	身体的強要・心理的攻撃	身体的強要・経済的圧迫	性的強要・心理的攻撃・経済的圧迫	身体的暴行・心理的攻撃・経済的強要	まったくくない	無回答
総数		744	1.3	5.0	0.9	2.7	1.6	0.3	0.4	0.9	2.0	0.3	0.7	0.7	-	0.7	1.1	78.2	3.2
性別	女性	408	1.5	3.9	1.7	4.9	1.5	0.2	0.7	0.7	3.7	0.5	0.2	1.0	-	1.2	1.2	74.5	2.5
	男性	330	1.2	6.4	-	-	1.8	0.3	-	1.2	-	-	1.2	0.3	-	-	0.6	82.7	4.2

## 6 交際相手からの暴力についての相談経験の有無・相談先

【問18で(a)～(d)のうち1つでも「2.10歳代にあった」、「3.20歳代にあった」、「4.30歳代以上にあった」と答えた方にお聞きします。】

問18-1 あなたは交際相手から受けたそのような行為について、どこ（だれ）かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

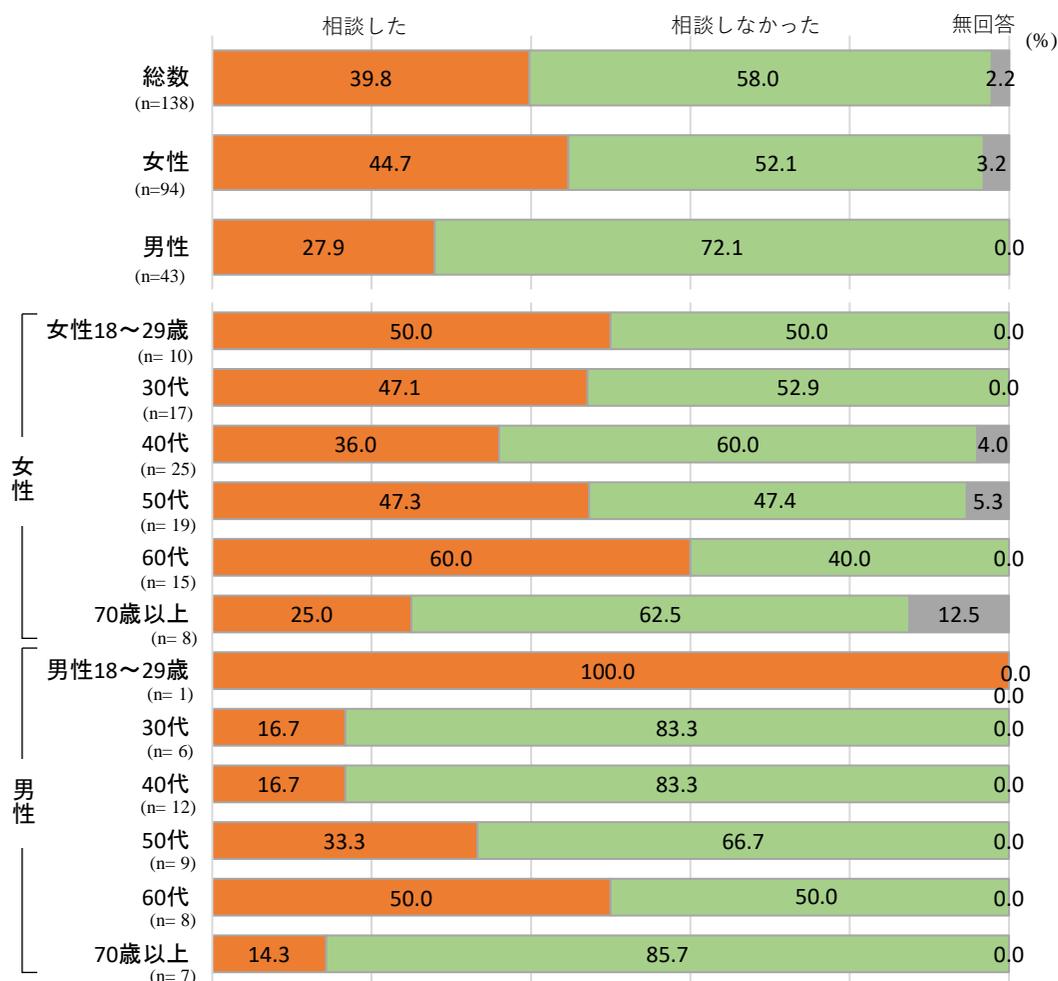
交際相手から被害を受けたことが「これまでにあった」と答えた人に、どこ（だれ）かに打ち明けたり、相談したことがあるかをたずねたところ、「相談した」と答えた人は39.8%、「相談しなかった」は58.0%で、「相談しなかった」方が18.2ポイント多かった。性別で見ると、「相談しなかった」は男性（72.1%）が女性（52.1%）より20.0ポイント多くなっている。

### 【性×年代別】

※女性の70歳以上および男性（40代を除く）についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。

女性では、「相談した」が70歳以上を除き、3割を超えている。

図18-1-1 交際相手からの暴力についての相談経験の有無 項目別一覧（性別、性×年代別）

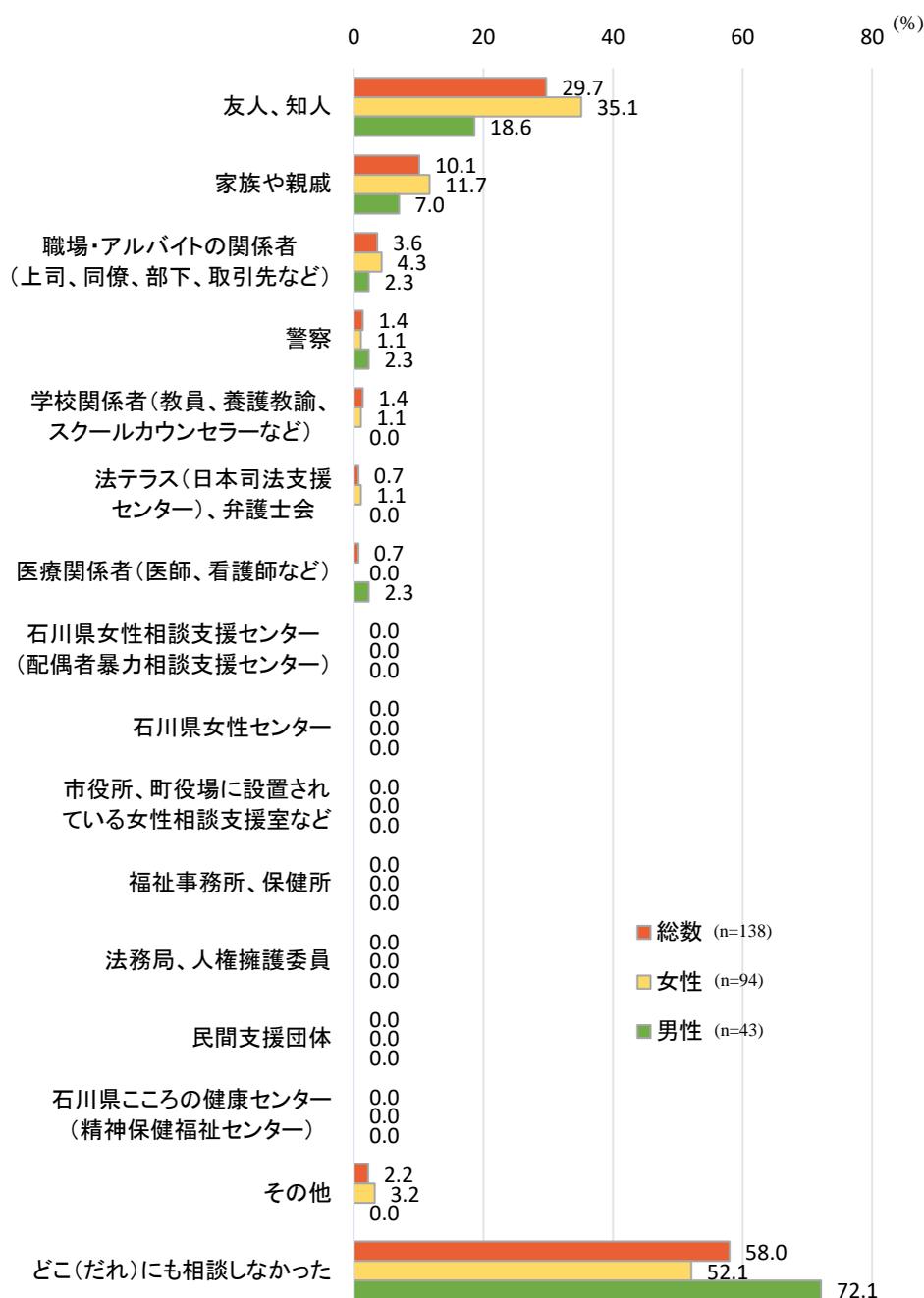


## 6 交際相手からの暴力についての相談経験の有無・相談先

相談した人のうち、どこ（だれ）に相談したかを見ると、女性では「友人、知人」（35.1%）、次いで、「家族や親戚」（11.7%）、「職場・アルバイトの関係者」（4.3%）の順で、それ以外は4%未満となっている。

男性では「友人、知人」（18.6%）、次いで、「家族や親戚」（7.0%）の順で、それ以外は3%未満となっている。

図18-1-2 交際相手からの暴力についての相談先 項目別一覧（性別）



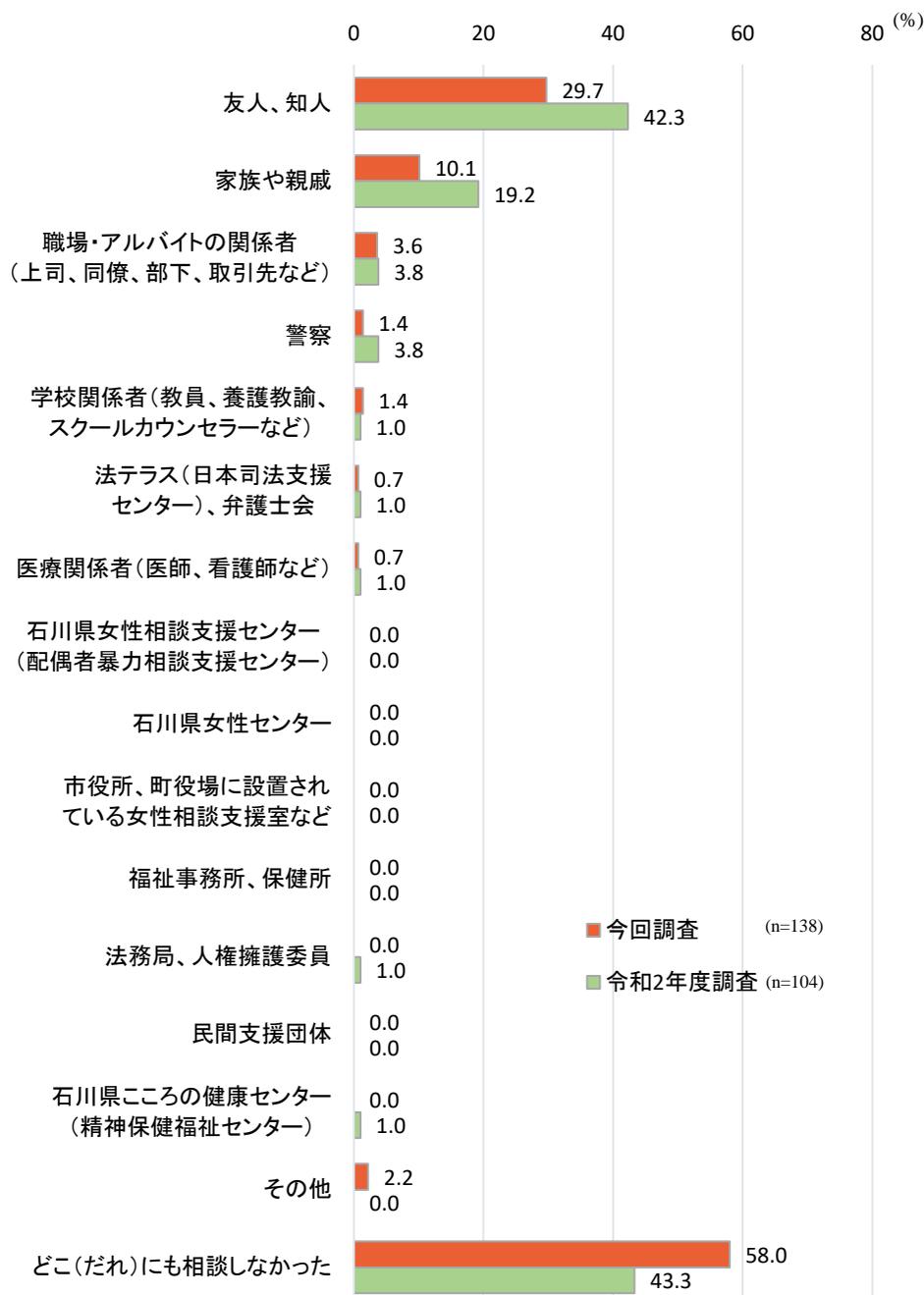
## 6 交際相手からの暴力についての相談経験の有無・相談先

### 【令和2年度調査との比較】

「友人、知人」(-12.6ポイント)と「家族や親戚」(-9.1ポイント)が、前回調査と比べ大きく減少している。

「どこ(だれ)にも相談しなかった」は14.7ポイント増加している。

図18-1-4 交際相手からの暴力についての相談先 【令和2年度調査との比較】



## 6 交際相手からの暴力についての相談経験の有無・相談先

### 【令和5年度内閣府調査との比較】

全般的に、相談している割合が低く、特に「友人、知人」(-18.9ポイント)で、内閣府調査を大きく下回っている。

また、「どこ(だれ)にも相談しなかった」割合は、内閣府調査を18.9ポイント上回っている。

図18-1-5 交際相手からの暴力についての相談先 【令和5年度内閣府調査との比較】



## 7 交際相手からの暴力について相談しなかった理由

【問18-1で「16. どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。】

問18-2 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

交際相手から被害を受けながら「相談しなかった」と答えた人に、その理由をたずねたところ、男女とも最も多かったのは「相談するほどのことではないと思ったから」（女性40.8%、男性58.1%）であった。

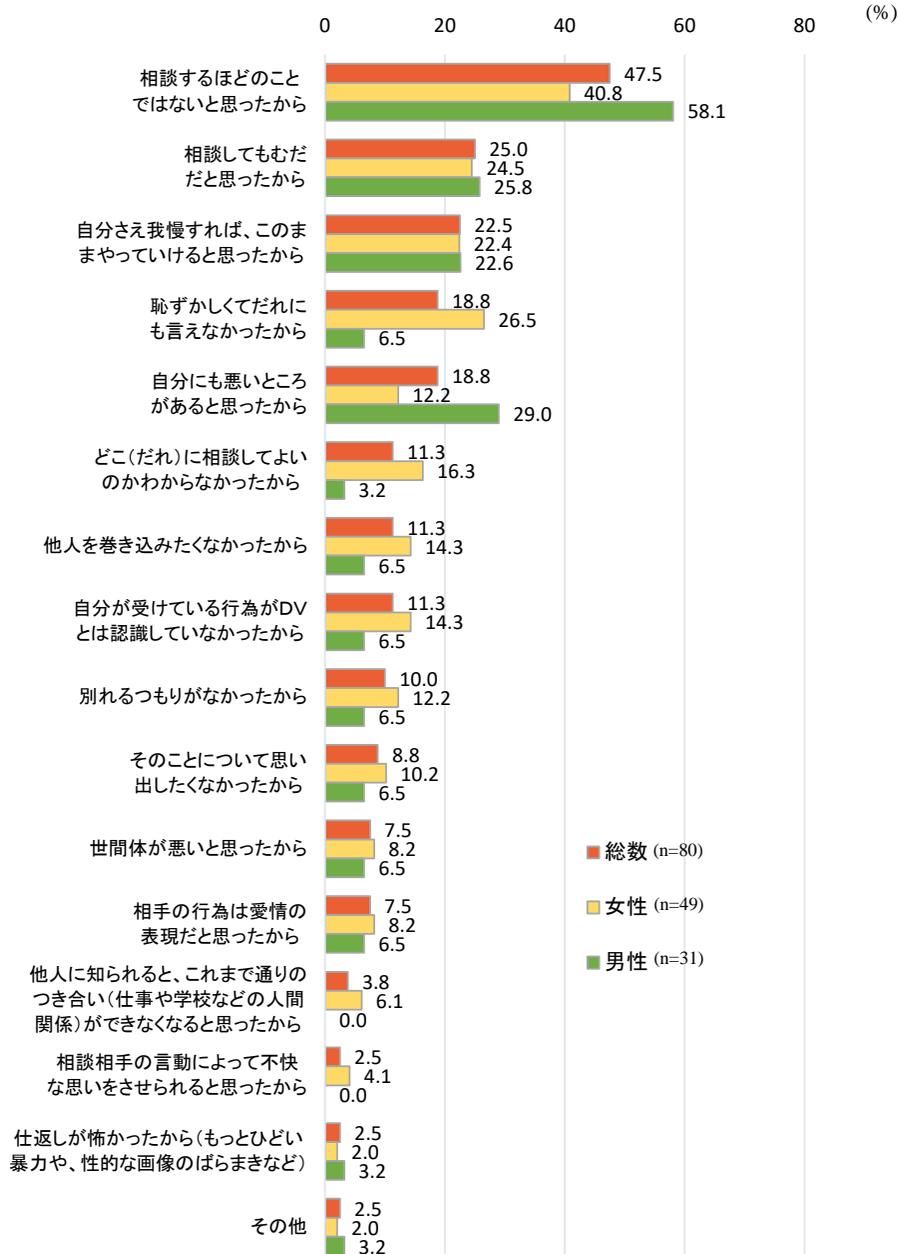
女性では、次いで「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」（26.5%）、「相談してもむだだと思ったから」（24.5%）が続く。

男性では、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」（29.0%）、「相談してもむだだと思ったから」（25.8%）が続く。

女性の方が男性より多くなったのは、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」、「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」、「他人を巻き込みたくなかったから」、「自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから」などがある。

男性の方が女性より多くなったのは、「相談するほどのことではないと思ったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」などであった。

図18-2-1 交際相手からの暴力について相談しなかった理由 項目別一覧（性別）



## 8 性暴力被害に関するイメージ

問19 性暴力被害に関するイメージとして、次の(a)~(g)について、あなたの考えに近いものの番号に1つずつ○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が多かったのは、  
女性では、

“(c) 被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気のない場所である”(52.0%)

“(a) 性暴力にあうのは、若い女性である”(50.1%)

“(g) 性暴力は、加害者の性欲が強すぎて、コントロールできずに起こっている”(41.6%)

男性では、

“(g) 性暴力は、加害者の性欲が強すぎて、コントロールできずに起こっている”(53.9%)

“(a) 性暴力にあうのは、若い女性である”(52.6%)

“(c) 被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気のない場所である”(51.0%)

男女とも「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計が最も多かったのは、

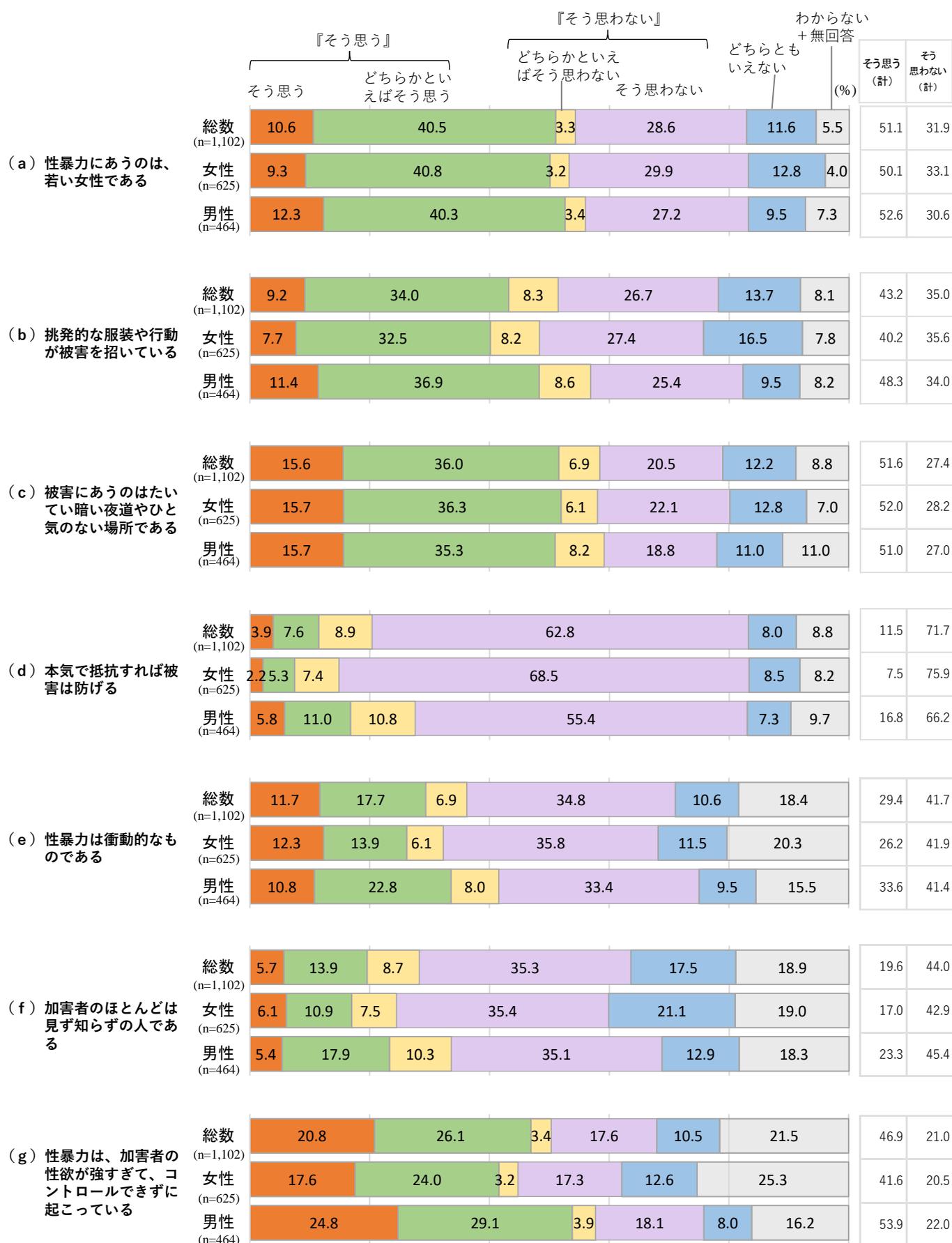
“(d) 本気で抵抗すれば被害は防げる”(女性75.9%、男性66.2%)であった。

男女で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計の差が大きいものとしては、

“(g) 性暴力は、加害者の性欲が強すぎて、コントロールできずに起こっている”(12.3ポイント差)と

“(d) 本気で抵抗すれば被害は防げる”(9.3ポイント差)であり、ともに男性が上回っている。

図19-1 性暴力被害に関するイメージ 項目別一覧（総数）



## 9 相談機関・関係者の周知状況

問20 DVや性暴力を受けたとき、相談できる機関や関係者であなたが既に知っていたものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

男女とも最も多かったのは「警察」(女性80.3%、男性83.6%)であった。  
次いで、女性では「石川県女性相談支援センター(配偶者暴力相談支援センター)」(23.5%)、「市役所、町役場に設置されている女性相談支援室など」(17.6%)の順となった。

男性では「法テラス(日本司法支援センター)、弁護士会」(17.0%)、「市役所、町役場に設置されている女性相談支援室など」(15.7%)の順となった。

### 【性×年代別】

男女ともすべての年代で「警察」が最も多い。女性では「石川県女性相談支援センター(配偶者暴力相談支援センター)」が60代(28.9%)で多くなっている。

男性では「法テラス(日本司法支援センター)、弁護士会」が60代(29.7%)で多くなっている。

図20-1 相談機関・関係者の周知状況 項目別一覧(性別)

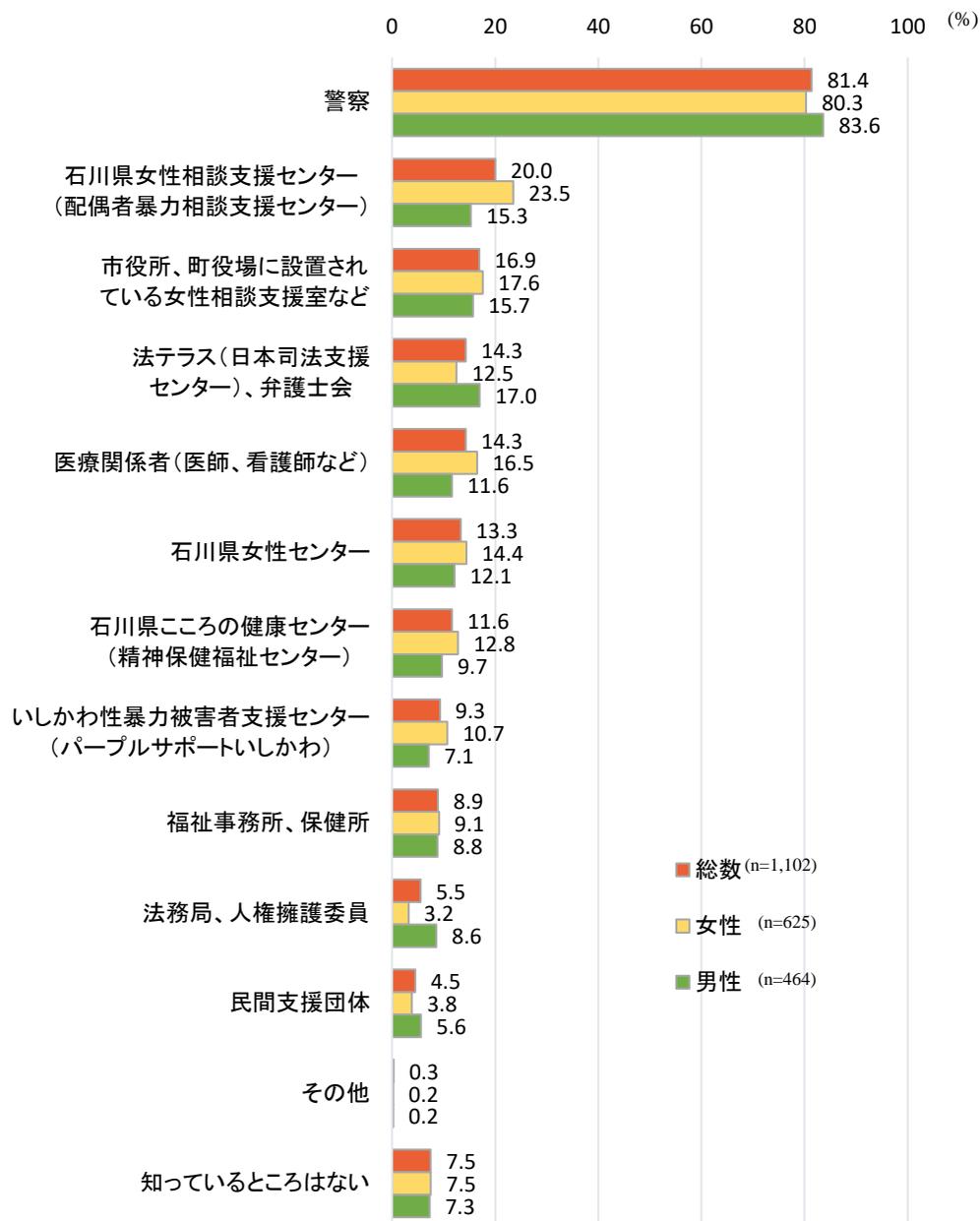
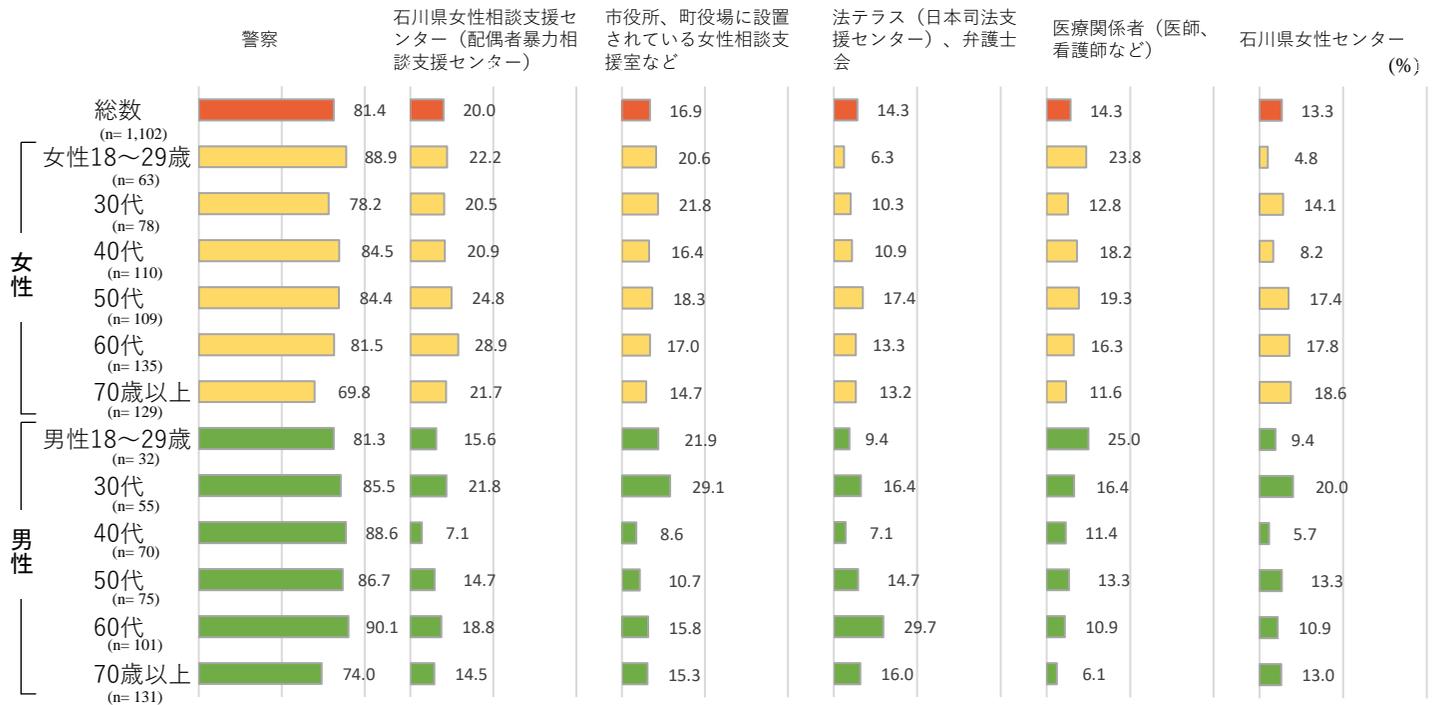


図20-2 相談機関・関係者の周知状況 項目別一覧（性×年代別）



## 10 DVや性暴力等の暴力を防止するために必要なこと

問21 DVや性暴力等の暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

全体では、「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる」（女性70.6%、男性66.2%、全体68.3%）が最も多く、次いで「学校または大学で、児童・生徒・学生に対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う」（女性60.6%、男性60.1%、全体60.4%）、「加害者への罰則を強化する」（女性57.1%、男性58.8%、全体57.8%）の順となった。

男女の差が大きいものは、「暴力を振るったことのある者に対し、繰り返さないための教育を行う」（6.6ポイント差）と「暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、インターネットなど）を取り締まる」（6.2ポイント差）で、どちらも女性のポイントが多くなっている。

### 【性×年代別】

女性では「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる」が30代と70歳以上を除き最も多い。「加害者への罰則を強化する」が30代（71.8%）で最も多くなっている。

男性では50代以外で「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる」が最も多くなっている。

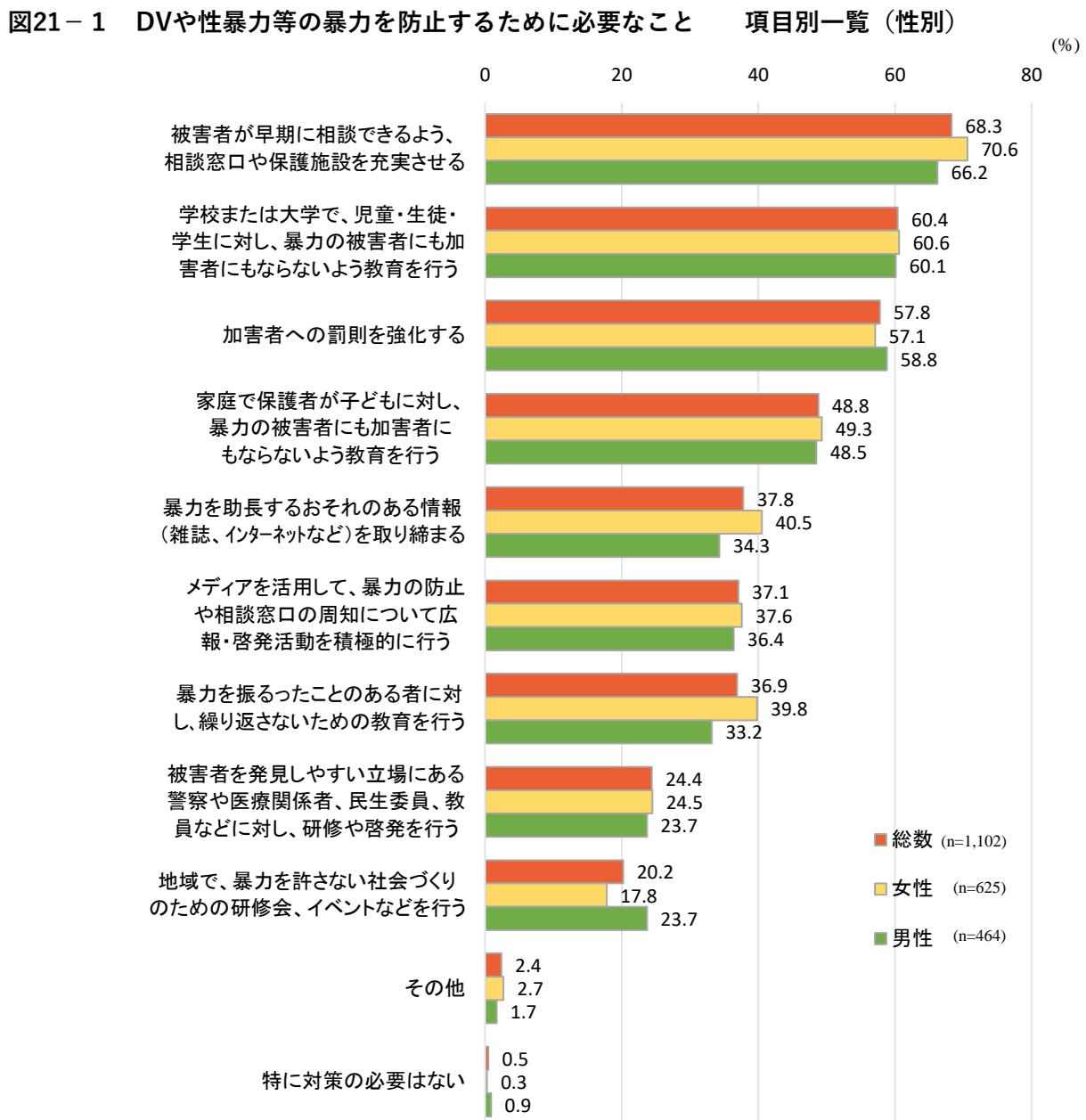


図21-2 DVや性暴力等の暴力を防止するために必要なこと 項目別一覧（年代別）

